

第二十七回 帝國議會 貴族院議事速記録第十八號

明治四十四年三月十六日(木曜日)

午前十時六分開議

議事日程 第十八號 明治四十四年三月十六日

午前十時開議

- 第一 明治四十四年度歳入歳出總豫算追加案(第二號)審查期限ヲ定ムルノ件
- 第二 明治四十四年度特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)審查期限ヲ定ムルノ件
- 第三 明治四十四年度歳入歳出總豫算追加案(第三號)審查期限ヲ定ムルノ件
- 第四 明治四十四年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第二號)審查期限ヲ定ムルノ件
- 第五 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第一號)審查期限ヲ定ムルノ件
- 第六 韓國鐵道會計所屬資金ノ繰入ニ關スル法律案(政府提出衆議院) 第一讀會
- 第七 租稅外諸收入金整理ニ關スル法律案(政府提出衆議院) 第一讀會
- 第八 電氣事業法案(政府提出衆議院) 第一讀會
- 第九 司法事務共助法案(政府提出衆議院) 第一讀會
- 第十 大藏省預金部ノ利益金ヲ一般會計ニ繰入ルル件ニ關スル法律案(政府提出衆議院) 第一讀會
- 第十一 市制改正法律案(政府提出衆議院) 第一讀會
- 第十二 町村制改正法律案(政府提出衆議院) 第一讀會
- 第十三 帝國學士院學術獎勵金特別會計法案(政府提出衆議院) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十四 朝鮮總督府鐵道及通信官署ニ於テ取扱フ現金ノ出納ニ關スル法律案(政府提出衆議院) 第一讀會ノ續(委員長報告)

貴族院議事速記録第十八號

明治四十四年三月十六日

議長ノ報告

第十五 明治四十年法律第四十八號中改正法律案(政府提出衆議院) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十六 明治四十年法律第四十九號中改正法律案(政府提出衆議院) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十七 東京市及大阪府ニ關スル法律案(衆議院提出) 第一讀會

第十八 地租條例中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第十九 登錄稅法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第二十 國稅徵收法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第二十一 砂糖消費稅法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十二 水道條例中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

〔河井書記官朗讀〕

昨十五日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

蠶絲業法案

日本勸業銀行法中改正法律案

農工銀行法中改正法律案

日本興業銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中改正法律案

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

鐵道又ハ船舶カ外國ノ鐵道又ハ船舶ト貨物ノ聯絡運輸ヲ爲ス場合ニ關スル法律案

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ衆議院提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

輕便鐵道法中改正法律案

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案

同日本院ニ於テ否決シタル左ノ衆議院提出案ハ第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決シタル旨ヲ衆議院ニ通知セリ

鐵道敷設法中改正法律案

鐵道敷設法中改正法律案

普通選舉ニ關スル法律案

同日本院ニ於テ可決シタル史蹟及天然記念物保存ニ關スル建議ハ文書ヲ以テ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

同日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

帝國學士院學術獎勵金特別會計法案特別委員會

委員長 伯爵清棲 家教君 副委員長 男爵辻 新 次君

樺太ニ於ケル漁業免許ノ取消及漁業料ノ徵收ニ關スル法律案特別委員會

委員長 村 田 保君 副委員長 伊 澤 修 二君

間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案特別委員會

委員長 伯爵寺 島 誠一郎君 副委員長 淺 田 德 則君

水道條例中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵大 木 遠吉君 副委員長 男爵小 野 尊 光君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

帝國學士院學術獎勵金特別會計法案可決報告書

朝鮮總督府鐵道及通信官署ニ於テ取扱フ現金ノ出納ニ關スル法律案可決報告書

報告書

明治四十年法律第四十八號中改正法律案可決報告書

明治四十年法律第四十九號中改正法律案可決報告書

間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案可決報告書

砂糖消費稅法中改正法律案修正報告書

水道條例中改正法律案可決報告書

請願文書表第八回報告書

明治四十二年年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)、明治四十二年年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)、明治四十二年度特別會計豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)、明治四十二年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)、明治四十二年度韓國派遣部隊豫備費支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)可決報告書

同日議員侯爵黑田長成君外十二名ヨリ百八十四名ノ賛成ヲ以テ國民道德教育ノ振興ニ關スル建議案ヲ發議セリ

○議長(公爵德川家達君) 近ゴロ本院議員ニシテ長逝セラル、御方が多クゴザイマスコトハ、議長トシテ誠ニ痛歎ニ堪ヘナイ次第デアリマス、本日亦悲ムベキ報道ヲ致サネバナラスコトニ相成リマシテ如何ニモ痛歎ノ至リニ存ジマス、昨十五日、本院議員宮島誠一郎君卒去セラレマシタ、故ニ本院ヨリ弔辭ヲ贈ルコトニ付イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、馬屋原君

〔左ノ質問主意書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

繪畫獎勵ノ方針ニ關スル質問主意書

我美術界ニ於ケル繪畫ノ有様タルヤ日本畫ハ漸ク誠實ヲ離レテ浮佻亂脈ニ傾キ又往々日本畫ト油繪ト混同ノ作畫ヲ企ツル者アルニ至リ隨テ油繪ノ如キモ未タ著シク進歩セサルハ一般ノ現狀ナリ今ヤ獎勵上一層ノ注意ヲ加ヘ宜シク繪畫ノ正路ニ依ラシメ之カ善長ナル進歩發達ヲ企圖スヘキ秋タルヲ信ス

一政府ハ如何ナル手段ヲ以テ之ヲ善長ナル方路ニ誘致スルノ見込ナルヤ
一政府ハ一般繪畫ニ對スル獎勵方針ハ美術審查會ニ於ケル繪畫鑑査ノ標準
上及教育機關ニ於ケル繪畫ノ教育上ニモ之ヲ一貫セシムルノ見込ナルヤ
右議院法第四十八條ニ依リ及質問候也

明治四十四年三月十三日

提出者 馬 屋 原 彰 賛成者 伯爵寺 島 誠一郎

外五十名

〔馬屋原彰君演壇ニ登ル〕

○馬屋原彰君 本員ハ今回政府ニ對シマシテ質問ヲ致サムト欲スル所ノ繪畫獎勵ノ方針ニ付キマシテ御參考ノ爲ニ茲ニ大體ノ要旨ヲ述ベ置キタイト存ジマス、我邦ニ於ケル繪畫ノ淵源ハ上古ヨリ支那ト一致シ、之ガ本義トスル所ハ筆墨ノ妙技ヲ以テ精神ノ妙趣ヲ現ハスニアリ、即チ胸中ノ山岳、胸中ノ成竹ヲ寫スニアルノデアリマス、本朝ノ繪畫ハ中古以降ハ御承知ノ如ク時世ノ推移ニ伴ヒ、段々流派ガ分レタノデアリマスガ、正シキ方路ニ基キ起ツタル所ノ前代ノ作家ハ、何レモ皆本義ニ依リ各、其識量ニ應ズルダケノ作畫ニ努

メ、目的ヲ達シタルモノデアリマス、本朝繪畫ノ特色トスル所、生命トスル所ハ、畢竟スルニ誠實ニ基イタル筆力、精神ノ妙趣ノ點ニ存スルノデアッテ、夙ニ世界ニ日本畫ノ賞ヲ博シタル所以モ、亦實ニ此妙技妙趣ノ點ニ歸スルノデアリマス、然ルニ近來ノ繪畫ノ有様ハ、年々逐ウテ寫生的俗樣ニ流レ、從ッテ其弊タルヤ漸ク誠實ト云フコトヲ離レテ、謂ハユル浮佻亂脈ニ傾キ、轉、繪畫ノ本義ニ遠ザカリツ、アル現狀デアリマス、固ヨリ繪畫ノ優劣ハ作者ノ人格、襟度、學識、此三ツノ高下ニ依ルモノデアリマスルガ、繪畫ノコトタルヤ俗目ヲ怡バセルノガ目的デハナイノデアリマスルカラシテ、巧拙ニ拘ラズ正格ナルモノヲ宜シトスルノデアルト思ヒマス、然ルニ今ノ繪畫ハ作者茲ニ努メズ自カラ修メズシテ時好ヲ逐ヒ、唯外觀ノ浮美ニノミ重キヲ置クト云フ傾キガアルノデアリマス、如何ニ繪畫ニ著色ヲ必要トスルモ、如何ニ外觀ノ艷麗ヲ競フヲ必要ナリトスルモ、肝腎ナル筆力、精神ノ妙趣ヲ闕クモノハ、世ノ識者ハ之ヲ賤シムノミナラズ、畫法ニ於テモ之ヲ忌ムノデアリマス、近ゴロ往々見ル所ニ依リマスレバ、奇ヲ法度ノ外ニ求メ、或ハ自然ノ定理ヲ逸シ、若クハ相容レザル所ノ水ト油ヲ一緒ニシテ、日本畫ト油繪ト混同ノ作畫ヲ企ツル者アリ、是等ハ謂ハユル浮佻亂脈ノ著シキ現象デアルト言ハネバナラスノデアリマス、成ルホド昔ハ偶々襟度アリ識量アル天才、超凡ノ大創作者ガ出テ、筆ヲ以テ麾ケバ天下皆之ニ風靡スルト云フコトモアッタカモ知リマセヌガ、明治ノ現代ニ於テ、シカモ其膽ナク識ナキ人ニシテ斯カル變態ノ作畫ヲ企ツル如キハ、世ノ識者ハ大ニ取ラザル所デアリマス、繪畫ノ正格ナルモノハ看ル者ノ心ヲ感化スル所ノ力ハ極メテ大ナルモノデアリマス、之ト同時ニ繪畫ノ浮佻亂脈ナルモノハ如何デアルカ、社會人心ノ腐敗ヲ誘致シ、延イテハ國運ノ消長ニ至大ノ關係ヲ及ボスト云フコトハ、内外歴史ノ證明スル所デアリマス、古人ガ既ニ繪畫ニ正ト邪トノ二途アルヲ論ジ、規矩アルヲ示シタル所以ハ、單リ繪畫ノ正格ヲ保ツ爲バカリデハナイ、社會ノ爲ニモ廣ク慮ル所ガアッタモノト本員ハ察スルノデアリマス、今ヤ當局者ノ獎勵上ニ於テハ一層ノ注意ヲ加ヘラレ、又一般ノ繪畫作者ニ於キマシテモ我邦ニ於ケル千有餘年ノ名譽アル歴史ヲ有スル美術ト云フ點ニ對シテ、深ク自ラ省ミル所ガアッテ、將來ニ向ッテハ益、其固有ノ美術ノ眞美ヲ發揮スル方ニ努メネバナラスト信ジマス、現在文部ノ直轄ノ下ニ設ケラレテアル所ノ美術審査委員會ナルモノハ、御承知ノ如ク美術獎勵ノ唯一機關デアリマスル

ガ、其機關ニ於テ是マデ繪畫ノ優劣等差ヲ査定シタルモノヲ視ルニ、往々ニシテ其標準トスル所ノモノガ、繪畫ノ正シキ規矩ニモ據ラズ、又自然ノ定理ニモ據ラザルモノガアルヤウニ見受ケラレマス、要スルニ此機關ニ於テ繪畫ノ優劣等差ヲ定メル標準ト云フモノハ何レニアルカ、本員ドモハ了解ニ苦シムノデアリマス、本員ハ此機關ノ甚ダ不完全ナルヲ感ズルト同時ニ、當局者ノ是マデノ獎勵ノ周到ナラザルヲ遺憾トスル所デアリマス、茲ニ於テ本員ガ政府ニ對シテ質問ヲ致シマスル所ノ要點ハ、政府ハ如何ナル手段ヲ以テ此現狀ニ對シテ之ヲ善長ナル方針ニ導クノ見込デアルヤ、又政府ニ於テ一般繪畫ニ對スル方針ハ、其審査機關ニ於ケル繪畫ノ優劣等差ヲ定メル標準ノ上、及教育機關ニ於ケル繪畫ノ教育ノ上ニモ之ヲ一貫スルノ見込デアルヤト云フ、此二點ノ確乎タル見込ヲ聞カムト欲スルノデアリマス、デ此問件ニ對シマシテハ政府ハ成ルベク詳細ナル答辯ヲ與ヘラレムコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス、以上御參考ノ爲ニ申述ベテ置キマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ議事日程ニ移リマス、議事日程第一、明治四十四年度歳入歳出總豫算追加案(第二號)審査期限ヲ定ムルノ件、第二、明治四十四年度特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)審査期限ヲ定ムルノ件、第三、明治四十四年度歳入歳出總豫算追加案(第二號)審査期限ヲ定ムルノ件、第四、明治四十四年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第二號)審査期限ヲ定ムルノ件、第五、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第一號)審査期限ヲ定ムルノ件

〔左ノ送付文ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

(第二號)明治四十四年度歳入歳出總豫算追加案

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

(特第一號)明治四十四年度特別會計歳入歳出豫算追加案

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

(第三號)明治四十四年度歳入歳出總豫算追加案

右本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

(特第二號)明治四十四年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

○子爵曾我祐準君 唯今御朗讀ニナリマシタル第一ヨリ第五マデノ豫算ニ關スル案ノ審査期限ハ、來ル十八日マデト致シタウゴザイマス、即チ今日ヨリ、今日ヲ籠メテ三日、十八日マデニ本議場ニ報告スルコトニ致シタウゴザイマス

○子爵堤功長君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 曾我子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第六、韓國鐵道會計所屬資金ノ繰入ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

韓國鐵道會計所屬資金ノ繰入ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

韓國鐵道會計所屬資金ノ繰入ニ關スル法律案

韓國鐵道會計ノ資本勘定ニ屬スル明治四十三年度末現在ノ資金ハ之ヲ朝鮮總督府特別會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員大屋權平君演壇ニ登ル〕

○政府委員(大屋權平君) 唯今ノ議題トナリマシタル法律案ハ極ク簡單デゴザイマス、從來韓國鐵道ノ建設ニ要スル資金ハ一般會計ヨリ韓國鐵道特別會計ニ移シテ居ッタノデゴザイマス、トコロガ此韓國鐵道ノ特別會計ハ本年限リ之ヲ廢シマシテ、明年度ヨリハ朝鮮總督府特別會計ノ中ニ入ルコトニナリマシタノデゴザイマス、而シテ朝鮮總督府特別會計ニ於キマシテハ、明年度以降ノ豫算ニ對スル財源ハ準備イタシテ居リマスルケレドモ、尙ホ四十三年度ヨリ繰入レマスモノニ對シマシテハ其財源ガゴザイマセヌ、ソレ故ニ既ニ一般會計ヨリ元ノ韓國鐵道ノ特別會計ヘ移シマシタ資金ヲ其儘、朝鮮總督府ノ特別會計ニ移シマス譯デゴザイマス、ドウカ御審議ヲ盡サレマシテ御協賛ヲ願ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第七、租稅外諸收入金整理ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

租稅外諸收入金整理ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十四年三月十四日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 長谷場 純孝

租税外諸收入金整理ニ關スル法律案

〔小字ハ衆議院ノ修正、一ハ同削除ノ符號、以下之ニ倣フ〕

第一條 政府ノ貸付金ヲ除クノ外租税外諸收入金ニシテ納人無資力ノ爲一時ニ收納スルコト困難ナル場合ニ於テハ之ヲ分賦辨濟ノ方法ニ依ル定期

貸ト爲シ又ハ資力回復^{○ノ時期限}ノ條件トスル据置貸ト爲スコトヲ得

第二條 前條ノ定期貸ニ付テハ最後ノ辨濟期ヨリ据置貸ニ付テハ貸付ノ日ヨリ二十年ヲ經過シタル場合ニ於テ債務者無資力ニシテ資力回復ノ見込ナシト認ムルトキハ其ノ債務ヲ免除スルコトヲ得

附則

第二條ノ規定ハ本法施行ノ際現存スル雜種貸及据置貸ニ之ヲ準用ス

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 是マデ政府ニ對シテ債務ヲ負ウテ居リマス者ガ、其原因ガ租税カラ來ッタモノデアリマセヌモノハ、其資力ガアリマセヌデ、直チニ納付スルコトノ出來ナイ場合ニハ、或ハ分納ヲ許シ、或ハ資力ガ回復シタナラバ、辨濟スルコト云フ條件デ、暫ク据置クト云フヤウナ取扱ヲシテ居ッタデアリマスガ、是ハズット從前カラノ取扱デアリマシテ、法律勅令等ニ基ク所ハ無カッタデアリマス、然ルニ斯様ナ取扱ヲシテ居ルモノハ、法律勅令ノ根據ガアリマセヌ爲ニ、何年經チマシテモ、イツマデ經ッテモ、無資力ノ狀態ガ繼續シテ居レバ其儘ダ始終債務ガ殘ッテ居ルト云フヤウナ狀態デ、財産狀態ガイツマデモ確定セヌト云フノガ今日ノ狀態デアリマス、ソレデ民法等ニ於テモ各、債務ニ付イテハ時効ヲ設ケテ、或ハ期間ヲ經過スレバ、其財産關係ハ確定スルト云フコトニナッテ居リマスガ、唯今申シマスル政府ニ對スル債務ハ今ノ様ナ狀態デアリマスルノデ、之ヲ此度法律ヲ設ケマシテ、定期貸ナリ、据置貸ナリ、各、基ク所ノ法律ノ根據ヲ與ヘテ之ト同時ニ一定ノ年限ヲ經過シテ、尙ホ資力ガ無クシテ到底辨濟ノ出來マセヌモノハ、其債務ヲ免除シテ財産關係ヲ確定シタイト云フノガ此法律ノ趣意デアリマス、ドウゾ御審議ノ上、御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第八、電氣事業法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、議案ノ朗讀ハ省略シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔左ノ送付文及議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

電氣事業法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

電氣事業法

第一條 本法ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一 一般ノ需用ニ應シ電氣ヲ供給スル事業

二 一般運送ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ノ動力ニ電氣ヲ使用スル事業

第二條 本法ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設スル水路、貯水池、器具機械、電線路及其ノ他ノ工作物ニシテ電氣事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

前項ニ於テ電線路ト稱スルハ電氣ノ傳送ニ用キル電氣導體及之ヲ支持シ又ハ保藏スル工作物ヲ謂フ

第三條 電氣事業ヲ營マムトスル者ハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 電氣事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル後ニ非サレハ工事ニ著手シ又ハ電氣工作物ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 電氣事業者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スヘシ主務大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

電氣事業者指定ノ期間内ニ事業ヲ開始セサルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條

主務大臣ハ公益上必要ナリト認メタルトキハ電氣事業者ニ對シ料金ノ制限其ノ他電氣
第一條第一號ノ電氣事業者ハ料金其ノ他電氣供給ノ條件ヲ定メ主
供給ノ條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第七條

電氣事業者ハ電氣工作物ノ施設ニ關スル測量又ハ工事ノ爲必要アル
ルトキハ他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ行政官廳ノ
許可ヲ受ケ且少クモ五日前ニ市町村長ニ通知シ市町村長ハ之ヲ告示シ
又ハ其ノ旨土地ノ占有者ニ通知スヘシ

電氣事業者ハ電氣工作物ノ修理又ハ巡視ノ爲必要アルトキハ命令ノ定ム
ル所ニ依リ其ノ工作物ヲ施設セル他人ノ土地又ハ建造物ニ立入ルコトヲ
得但シ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ危險急迫ノ場合ニ非サレハ占有者ノ
意ニ反シテ邸宅其ノ他建造物ニ立入ルコトヲ得ス

第八條

電氣事業者ハ電線路ノ施設及保守ニ障害ヲ及スヘキ竹木其ノ他ノ
植物ヲ伐除又ハ移植スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ所有者ト協議調ハス
又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ之ヲ伐除シ又
ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ豫メ其ノ旨所有者ニ
通知スヘシ

危險急迫ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ前項ノ規定ニ拘ラス直ニ竹木其ノ
他ノ植物ヲ伐除又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ旨
行政官廳ニ届出テ且其ノ所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第九條

電氣事業者ハ河川、橋梁、溝渠、道路、堤防其ノ他公共ノ用ニ供セ
ラレタル土地ノ地上又ハ地中ニ電線路ヲ施設スル必要アルトキハ其ノ效
用ヲ妨ケサル限度ニ於テ管理者ノ許可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ管理者ノ定ムル所ニ依リ使用料ヲ納ム
ヘシ

管理者タル地方行政廳ニ於テ正當ノ事由ナクシテ第一項ノ許可ヲ拒ミタ
ルトキ又ハ管理者ノ定メタル使用料ノ額ヲ不相當ナリトスルトキハ主務
大臣ハ電氣事業者ノ申請ニ依リ使用ヲ許可シ又ハ使用料ノ額ヲ定ムルコ
トヲ得

第十條

電氣事業者ハ必要アルトキハ現在ノ使用方法ヲ妨ケサル限度ニ於
テ他人ノ地上ノ空間若ハ地中ニ電線路ヲ施設シ又ハ建造物ノ存在セサル

他人ノ土地ニ電線ノ支持物ヲ建設スルコトヲ得

電氣事業者前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セムトスル場合ニ於テ其
ノ所有者及占有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ
使用ノ範圍ヲ定メ豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケテ其ノ工事ニ著手スルコト
ヲ得此場合ニ於テハ少クモ五日前ニ其ノ旨土地ノ所有者及占有者ニ通
知スヘシ

第十一條 電線路ヲ施設シタル土地ノ近接地又ハ前條ニ依リ電線路ヲ施設
シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ土地ノ使用方法ヲ變更スル爲必要アル
トキハ命令ノ定ムル所ニ依リ電氣事業者ニ對シ障害ノ豫防又ハ除却ニ必
要ナル方法ヲ施スコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ工事ニ要スル費用ハ電氣事業者ノ負擔トス但シ其ノ工事ヲ爲シタ
ル後正當ノ事由ナクシテ豫定ノ變更ヲ爲ササルトキハ請求者ノ負擔トス

第十二條

第七條、第八條及第十條ノ場合ニ於テ現ニ生シタル損失ハ電氣
事業者之ヲ補償スヘシ
前項ノ補償金額ハ許可ヲ爲シタル行政官廳ニ於テ之ヲ裁定ス裁定ニ不服
アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコト
ヲ得

行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ電氣事業者ヲシテ損失ノ補償ニ充ツヘキ
金額ヲ供託セシムルコトヲ得

第十三條

電氣事業者ハ地中電氣工作物ヲ施設スル場合ニ於テ他人ニ屬ス
ル地中電氣工作物ノ位置ヲ變更スル必要アルトキハ當該工作物ノ效用ヲ
妨ケサル限度ニ於テ其ノ位置ヲ變更シ又ハ其ノ工作物ノ所有者ヲシテ其
ノ變更ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條

主務大臣ハ工地上已ムヲ得スト認メタル箇所ニ限り電氣事業者
ニ對シ電線路ノ共用ヲ命スルコトヲ得

第十五條

電氣工作物相互間及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケ
ル障害ヲ防止スル爲必要ナル施設ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條

前三條ニ依ル工事ニ關スル費用ノ負擔其ノ他ノ條件ハ命令ヲ以
テ定ムルモノノ外當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハサルトキハ主務大臣之
ヲ裁定ス

第十七條 第一條ニ掲クルモノノ外電氣ヲ供給又ハ使用スル事業ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十八條 電氣工作物ヲ損壞シ之ニ物品ヲ接觸シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九條 電氣事業者ノ承諾ヲ得シテ濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケテ

爲スヘキ行爲ヲ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

ニ違反シタル者

第二十一條 電氣事業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルト

キハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ電氣事業ヲ營ム者又ハ本法施行前ニ於テ電氣事業經營ノ許可ヲ受ケタル者ハ第三條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

〔國務大臣男爵後藤新平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵後藤新平君) 唯今提出ニナリマシタ電氣事業法案ノ梗概ヲ申シテ置キマス、本法案ハ電氣事業ノ我國ニ於テ追々發達イタシマスニ付キマシテ一定ノ法制ノ必要ヲ感ズルニ至リマシタ、其電氣事業ノ發達ノ程度ハ五十九萬一千餘ノ「キロワット」ニ上ボリマス勢ヒデアリマシテ、尙ホ將來ハ益々此電氣事業ノ發達ヲ見ルニ至ルベキ勢ヒデアリマス、然ルニ之ニ對スル所ノ法制ノ備ハラザル爲ニ、其進歩ニ伴フベキ保護監督ノ全キヲ致ス能ハザルヲ遺憾トスル次第デアリマス、何レノ國ニ於キマシテモ、此近年電氣事業ノ發達ニ對シテノ保護監督ヲ完ウスルコトヲ努メテ居ル次第ゴザイマス

ガ、其國ノ情況ニ依ッテ固ヨリ同カラヌノデアリマス、我國ニ於キマシテモ、内外ノ事蹟ニ鑑ミマシテ此度之ヲ提出スルニ至ッタノデアリマス、勿論此問題ハ昨年ニ於テモ、貴族院ニ於テ審議ヲ盡サレマシテ、兩院協議會ニモ相成リマシタ次第デアリマス、遺憾ナガラ當時成立ヲ見ルニ至ラザリシ次第デアリマスガ、爾來益々是ノ必要ヲ見ルニ至リマシタ次第ゴザイマス、故ニ此度更ニ之ヲ提出イタシマシテ、衆議院第六條ニ修正ヲ提出サレマシテ、政府モ之ニハ此度同意イタシマシタ次第デアリマス、其結果ト致シマシテ第二十條ニ又修正ヲシナケレバナラヌコトニナリマシタガ、此修正ニモ同意ヲ致シマシタ次第デアリマス、御審議ノ上、協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○伯爵大木遠吉君 私ハ此際、遞信大臣ニチヨット御尋ネシタイノデアリマスルガ、唯今ノ御説明ニ依リマスルト、電氣事業ニ付イテ監督其他ノコトヲ注意ヲ要スル必要ガ有ッタニ依ッテ本案ヲ提出セラレタト云フ御説ニ承リマシタ、茲ニ東京電燈會社ト云フ電氣事業經營ニ關スル會社ガアリマスガ、此會社ハ甚ダ料金ニ於テ不當ナル料金ヲ取ッテ居ルト云フヤウナ説モ本員ハ再々耳ニ致シテ居リマス、本員ハ竊ニ考ヘル、斯ノ如キ文明ノ餘澤ハ一般何人ト雖モ出來得ル限リハ均霑セシムルガ精神デアラウト思ヒマス、斯ウ思フニ拘ラズ、不當ナル高値ヲ以テ供給スルガ故ニ、文明ノ餘澤ニ需フコトガ出來ヌト云フ者モ一面ニアルヤウニ思フ、斯ノ如キ情況ニ於テ之ガ監督ヲナサル遞信大臣ハ如何様ナ御解釋ヲ御持チニナリマスカ、本案ガ通過シタ曉ニハ之ニ依ッテ十分ナル御監督ヲナサッテ下サルコトデアラウト思ヒマスガ、如何様ノ御考ヘデアリマスカ、果シテ此東京電燈會社ナルモノガ世間ノ傳フル如ク不當ノ料金ヲ取ッテ居ルヤ否ヤ、其邊ノ御調査モ御アリニナリマスナラ豫メ承リタイト思ヒマス、此段チヨット御説明ヲ願ヒマス

〔國務大臣男爵後藤新平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵後藤新平君) 大木伯爵ノ御質問ニ御答ヘ致シマス、本邦ノ電氣事業ハ御承知ノ通り、其歴史ヲ同ウセズ、成立ノ上ニ付キマシテ資本關係其他ガ種々ナル情況ニナッテ居リマス、又學術ノ進歩ニ依ッテ其差ヲ免カレ難イ次第モゴザイマス、是等ノモノニ對シマシテ相當ノ保護監督ヲ完ウシテ過不及ナカラシムルヤウニ致スコトハ當局ノ最モ努メムトスル所デアリマス、之ガ爲ニハ法制ノ完備ヲ主ト致シマス、ソレ故ニ本案ヲ提出イタシマシ

タ次第デアリマス、東京ニ於テ某電燈、又其他ノ地方ニ於テ某電燈ト云フコトヲ舉ゲテ玆ニ申述ブルノ場合デ無カラウト考ヘマスガ、斯様ナルモノヲ總テ適當ニ處理イタシマシテ、需要者ト供給者トノ間ニ中庸ヲ得セシムルコトヲ努ムルニ此法案ノ必要ヲ認メテ居ル次第デアリマス、本案成立ノ上ニハ益、此點ニ向ッテ努メテ遺憾ナキコトヲ期スル譯デアリマス

〔伯爵大木遠吉君「分リマシタ」ト述フ〕

○伯爵柳澤保惠君 逕信大臣ニモウツ伺ヒタウゴザイマスガ、此今度ノ改正ハ原案デ見マス、餘程意味ガ輕イヤウニ考ヘテ居リマス、之ニ御同意ニナッタノハ前ノ原案ノ規定ニ付イテ多少不十分デアルト云フコトニ付イテノ御考ヘデ修正ニ同意サレタノデアリマス、元來ノ御精神ガ矢張り此修正ノヤウナ御考ヘデアッタノデアリマス、是ハ餘程此案ヲ決議スルニ於キマシテ必要ナル修正デゴザイマスニ付イテ、モウ少シ詳細ニ御説明ヲ煩ハシタイト考ヘマス

〔國務大臣男爵後藤新平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵後藤新平君) 柳澤伯爵ノ御質問ニ御答ヘ致シマスガ、御質問ノ要領ハ第六條ノ修正ハ原案ト趣旨ヲ異ニシテ居ルヤウデアアルガ、其修正ニ於テ政府ノ精神ハ達セラレカト云フ御質問ノヤウニ考ヘマスガ、政府ハ原案ノ通りガ最モ良イト考ヘテ提出イタシマシタノデアリマス、併シ此修正ノ成文ニ依リマシテモ政府ノ精神ヲ達スルニハ差支ナイト認メマシタカラ、同意イタシマシタ次第デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第九、司法事務共助法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

司法事務共助法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

司法事務共助法

第一條 内地及樺太、朝鮮、臺灣、關東州又ハ帝國ノ領事裁判權ヲ行フ地域ニ於テ司法事務ヲ取扱フ官廳間ノ司法事務ノ共助ハ本法ニ依ル

第二條 司法事務ヲ取扱フ官廳ハ民事及刑事ニ關シ相互ニ左ノ事項ヲ囑託スルコトヲ得

一 訴訟書類ノ送達

二 證據調

三 令狀ノ發付及執行

四 犯罪ノ搜查

第三條 民事ノ判決ハ其ノ執行力アル正本ニ基キ司法事務ヲ取扱フ他ノ官廳ノ管轄區域内ニ於テ其ノ強制執行ヲ爲スコトヲ得但シ執行地ノ法令ニ依リ許スヘカラサル請求ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ假差押又ハ假處分ノ命令ノ執行ニ之ヲ準用ス

第四條 刑事ノ判決ハ謄本ヲ送付シテ其ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得但シ死刑又ハ笞刑ヲ言渡シタル判決ニ付テハ此限ニ在ラス

前項ノ囑託ニ依ル執行ニ付テハ刑名同シキモノハ之ヲ同一ノ刑ト看做シ舊韓國法規ノ流刑又ハ禁獄ハ之ヲ禁錮ト看做ス

第五條 前條ノ規定ニ依リテ囑託ヲ受ケタル官廳ハ其ノ管轄區域内ノ監獄ニ於テ刑ノ執行ヲ繼續スルコト能ハサル事由ヲ生シタルトキハ囑託ヲ爲シタル官廳ニ其ノ管轄區域内ノ監獄ニ於テ繼續シテ之ヲ爲スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第六條 司法事務ノ共助ニ關スル費用並受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣子爵岡部長職君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(子爵岡部長職君) 内地及樺太、朝鮮、臺灣、關東州等ニ於キマシテ司法事務ヲ取扱ヒマスル官廳間ノ司法事務ノ共助ニ關シマシテハ明治三十三年法律第八十三號、明治四十年法律第五十二號及明治四十二年法律第三十六號ニ各別ニ之ヲ規定シテアリマス、而シテ帝國ノ領事裁判權ヲ行フ所ノ地域ニ於キマシテハ司法事務ヲ取扱フ官廳ト、内地及樺太、朝鮮、臺灣、關東州等ニ於テ司法事務ヲ取扱フ官廳トノ共助ニ關シマシテハ從來其規定ヲ闕イテ居リマス、因リマシテハ司法事務運用上ニ付キマシテ不便ナル所ガ少カラヌ次第デアリマス、又統監府裁判所ハ朝鮮總督府裁判所ト相成リマシタ

ニ依リマシテ、是等司法事務ヲ取扱ヒマスル總テノ官廳間ニ於ケル事務ノ共助ニ關スル規定ヲ統一整理イタシマシテ、且ツ共助ヲ爲シ得ベキ事項ニ關シマシテモ令狀ノ發付及犯罪ノ搜查ノ事項ヲモ加ヘマシテ、從來ノ不備ヲ補足イタシマスノ必要ヲ認メマシタ次第デアリマス、是レ本案ヲ提出イタシマシタル所以デアリマス、本案ニ對シマシテ衆議院ニ於キマシテハ些カ修正ヲ加ヘマシタル所モアリマス、是ハ政府ニ於キマシテモ同意ヲ表シマシタル次第デアリマス、ドウカ速ニ御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十、大藏省預金部ノ利益金ヲ一般會計ニ繰入ルル件ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

大藏省預金部ノ利益金ヲ一般會計ニ繰入ルル件ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

大藏省預金部ノ利益金ヲ一般會計ニ繰入ルル件ニ關スル法律案

政府ハ大藏省預金部ノ利益金ヨリ毎年度百萬圓ヲ限リ之ヲ一般會計ヘ繰入ルルコトヲ得

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 此法案ハ本日ノ第一ノ日程ニ上ボツテ居リマス、四十四年度第二號ノ追加豫算デアリマスル所ノ小學教育費國庫補助ノ豫算ニ對スル財源トシテ預金部ノ利益金ヨリ百萬圓ヲ一般會計ニ繰入レヤウト云フ案デアリマス、元來、預金部ノ今日ノ總高ハ約二億五千萬ニ上ボツテ居リマシテ、之ニ對シテハ相當ノ準備積立金ヲ持ツテ居ルノガ相當デアリマスノデ、利益基金ヲ積立テ、以テ之ガ準備ニスルノガ極ク至當ナ方法デ、是マデ左様ニ行ツテ居ルノデアリマス、加之、預金部ノ資金ナルモノハ其運用ニ依リマシテ地方ノ低利資金ノ供給、鐵道或ハ治水事業ノ資金ノ融通等、國家ガ極ク必要ト致シマス所ノ働キヲシテ居ルノデアリマスカラ、此金ハ成ルベク預金部ニ於テ運用セシメテ之ヲ一般會計ニ繰入レテ政費ノ補充ニスルヤウナコトハ成ルベク避ケナケレバナラヌコト、考ヘテ居リマス、然ルニ此度小學教員ニ支給ヲ厚クスル必要ヨリシテ小學教育費ノ國庫ノ補助額ヲ増加シナ

ケレバナラヌコトニナリマシタ、此事柄ハ又一方國民教育ノ根本タル小學教育ノ施設上、極ク必要ナモノデゴザイマシテ、其必要ナルコトハ先キホド申上ゲマシタ預金部ニ在ツテ資金運用ニ依ツテ働キマスル必要ト相讓ル所ノ無イクラキ必要ナモノデアリマス故ニ、ソレ故ニ元來預金部ノ資金ハ成ルベク之ヲ一般會計ニ繰入レナイ方ガ相當デアリマスケレドモ、此事ノミノ爲ニハ其財源トシテ一般會計ニ繰入レテ差支ナカラウ、斯ウ云フ意味ヲ以テ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、ドウゾ御審議ノ上ニ御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十一、市制改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、第十二、町村制改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

市制改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

市制改正法律案

市制

第一章 總則

第一款 市及其ノ區域

第二款 市住民及其ノ權利義務

第三款 市條例及市規則

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限

第三章 市參事會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限

第四章 市吏員

第一款 組織選舉及任免

第二款 職務權限

第五章 給料及給與

第六章 市ノ財務

第一款 財産營造物及市税

第二款 歳入出豫算及決算

第七章 市ノ一部ノ事務

第八章 市町村組合

第九章 市ノ監督

第十章 雜則

市制

第一章 總則

第一款 市及其ノ區域

第一條 市ハ從來ノ區域ニ依ル

第二條 市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並

從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 市ノ廢置分合ヲ爲サムトスルトキハ關係アル市町村會及府縣參事

會ノ意見ヲ徵シテ内務大臣之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ財産アルトキハ其ノ處分ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ

徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第四條 市ノ境界變更ヲ爲サムトスルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會

ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬

未定地ヲ市ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ財産アルトキ其ノ處分ニ關シテハ前項ノ例ニ依ル

第五條 市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ府縣知事ハ府縣

參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴

スルコトヲ得

第一項ノ裁定及前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ關

係市町村ニ交付スヘシ

第一項ノ裁定及第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條 勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財産及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他區ノ境界ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ關係アル市會ノ意見ヲモ徵スヘシ

第七條 市ハ其ノ名稱ヲ變更セムトスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

市役所ノ位置ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

前條ノ市カ其ノ區ノ名稱ヲ變更シ又ハ區役所ノ位置ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ前項ノ例ニ依ル

第二款 市住民及其ノ權利義務

第八條 市内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市住民トス

市住民ハ本法ニ從ヒ○財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市ノ負擔ヲ分

任スル義務ヲ負フ

第九條 帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子二年以

來市ノ住民ト爲リ其ノ市ノ負擔ヲ分任シ且其ノ市内ニ於テ○直接國稅○ヲ

納ムルトキハ其ノ市公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年

ヲ經サル者、禁治產者、準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處

セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

市ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲

シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

市公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更

ノ爲中斷セラルルコトナシ

市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ市公民ノ要件中市ノ負擔分任ニ關スル規定

ヲ適用セス

第十條 市公民ハ市ノ選舉ニ參與シ市ノ名譽職ニ選舉セラルル權利ヲ有シ市ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ市ハ一年以上四年以下其ノ市公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以內其ノ者ノ負擔スヘキ市税ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 業務ノ爲常ニ市内ニ居ルコトヲ得サル者

三 年齢六十年以上ノ者

四 官公職ノ爲市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四年以上名譽職市吏員、名譽職參事會員、市會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六 其ノ他市會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條 市公民第九條第一項ニ掲ケタル要件ノ一ヲ闕キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ其ノ公民權ヲ失フ

市公民租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第三款 市條例及市規則

第十二條 市ハ市住民ノ權利義務又ハ市ノ事務ニ關シ市條例ヲ設クルコトヲ得

市ハ市ノ營造物ニ關シ市條例ヲ以テ規定スルモノノ外市規則ヲ設クルコトヲ得

市條例及市規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第十三條 市會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人ノ選舉ス

議員ノ定數左ノ如シ

一 人口五萬未満ノ市ニ於テハ 三十人

二 人口五萬以上十五萬未満ノ市ニ於テハ 三十六人

三 人口十五萬以上二十萬未満ノ市ニ於テハ 三十九人

四 人口二十萬以上三十萬未満ノ市ニ於テハ 四十二人

五 人口三十萬以上ノ市ニ於テハ 四十五人

人口三十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口十萬、人口五十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ議員三人ヲ増加ス

議員ノ定數ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口

ノ増減アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 市公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第十一條

第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ直接市稅ヲ納ムル者其ノ額市公民ノ最多ク納稅スル者三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ第九條第一項ノ要件ニ當ラスト雖選舉權ヲ

有ス但シ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

法人ニ關シテモ亦前項ノ例ニ依ル

直接市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ其ノ市内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依リ前二項ノ規定ヲ適用ス

前三項ノ直接市稅及直接國稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十五條 選舉人ハ分チテ三級トス

選舉人中直接市稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス但シ一級選舉人ノ數議員定數ノ三分ノ一

ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員定數ノ三分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス

一級選舉人ヲ除クノ外直接市税ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル直接市税ノ總額中一級選舉人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ三級トス但シ二級選舉人ノ場合ニハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二人以上アルトキハ其ノ市内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テシ年齡ニ依リ難キトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ每級各別ニ議員定數ノ三分ノ一ヲ選舉ス但シ選舉區アル場合ニ於テ議員ノ數三分シ難キトキハ其ノ配當方法ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス各級ニ通シテ選舉セラルルコトヲ得

直接市税ヲ賦課セサル市ニ於テハ第二項乃至第四項ノ納稅額ハ選舉人ノ市内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依ルヘシ

第二項乃至第四項及前項ノ直接市税及直接國稅ノ納額ニ關シテハ前條第五項ノ規定ヲ適用ス

第十六條 市ハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ

選舉區ノ數及其ノ區域竝各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ前項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ區ヲ以テ選舉區トス其ノ各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム市内ニ住所ナキ者ハ直接市税若ハ直接國稅ノ賦課ヲ受ケタル物件又ハ營業所ノ所在ニ依リ物件又ハ營業所ニシテ數選舉區ニ在ル場合ニハ之ニ對スル課稅ノ最多キ所ニ依リ其ノ

之ニ依リ難キ場合ニハ本人ノ申出ニ依リ其ノ申出ナキトキハ市長〇ニ於テ選舉區ヲ定ムヘシ

選舉區ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ但シ一級選舉

人ノ數其ノ選出スヘキ議員配當數ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員配當數ト同數ヲ以テ一級トス二級選舉人ニ付亦同シ

被選舉人ハ同選舉區内ノ者ニ限ラス各選舉區ニ通シテ選舉セラルルコトヲ得

第十七條 特別ノ事情アルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ得區劃ヲ定メ選舉分會ヲ設クルコトヲ得二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ

第十八條 選舉權ヲ有スル市民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者亦同シ

一 所屬府縣ノ官吏及有給吏員

二 其ノ市ノ有給吏員

三 檢察警察官吏及收稅官吏

四 神官社職僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、重役及支配人

金錢出納ノ取扱ヲ爲ス者又ハ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ市ニ於テ被選舉權ヲ有セス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ同級ニ在リテハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ等級若ハ選舉區ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ

後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ

市長市參與又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第十九條 市會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ每級各別ニ市長抽籤シテ之ヲ定ム選舉區アル場合ニ於テハ第十六條ノ市條例中ニ其ノ

解任ヲ要スル者ノ選舉區及等級ヲ規定シ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ但シ解任ヲ要スル選舉區及等級ニ關員アルトキハ其ノ關員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

選舉區又ハ其ノ配當議員數ノ變更アリタル場合ニ於テ之ニ關シ必要ナル事項ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第二十條 市會議員中關員ヲ生シ其ノ關員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ府縣知事市長若ハ市會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ハ前任者ノ選舉セラレタル等級及選舉區ニ於テ之ヲ選舉スヘシ第二十一條 市長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區アルトキハ選舉區毎ニ名簿ヲ調製スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ前項ノ名簿ヲ調製セシムヘシ

市長ハ選舉期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄市役所^四第六條ノ市ニ於テハ區役所又ハ告示シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ市長第六條ノ市ニ於テハ區長ヲ經テニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ縦覽期間

滿了後三日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前四項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ市長ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加ヘ第六條ノ市ニ於

テハ區長ヲシテ修正セシムヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ第三條又ハ第四條ノ處分アリタル場合ニ於テ府縣知事ノ指定スルモノヲ除クノ外其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用ウ選舉區アル場合ニ於テハ各選舉區ニ涉リ同時ニ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用キ一部ノ選舉區限リ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ該選舉區ニ於テノミ行フ選舉ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日前四日迄ニ之ヲ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ市長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告示セシムヘシ

選舉分會ヲ設クルトキハ市長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得但シ選舉人名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接市稅又ハ直接國稅ニ依リ其ノ者ノ納額ニシテ名簿ニ登錄セラレタル一級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ二級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ二級ニ於テ其ノ他ハ三級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

第三項乃至第六項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縦覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用キ縦覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

第二十二條 市長ハ選舉期日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉會場、投票ノ日時

前

間

及各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉區アル場合ニ於テハ各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ選舉區毎ニ分別シ選舉分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ等級及區劃ヲ告示スヘシ

各選舉區ノ選舉ハ同日時ニ之ヲ行ヒ選舉分會ノ選舉ハ本會ト同日時ニ之ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ同日時ニ選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ市長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル選舉會又ハ選舉分會ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキハ市長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル等級ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

第二十三條 市長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

各選舉區ノ選舉會ハ市長又ハ其ノ指名シタル吏員
第六條ノ市ニ選舉長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス
於テハ區長

選舉分會ハ市長ノ指名シタル吏員選舉分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

市長第六條ノ市ニハ選舉人中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉區アルトキ又ハ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ設クヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス

第二十四條 選舉人ニ非サル者ハ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者、選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選舉長又ハ分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉長又ハ分會長會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ

投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第二十五條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入リタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ但シ確定名簿ニ登錄セラレタル毎級選舉人ノ數其ノ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選舉區アル場合ニ於テ選舉人名簿ノ調製後選舉人ノ所屬ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選舉人ハ前所屬ノ選舉區ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ分會長少クトモ一人ノ選舉立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘシ

第二十六條 増員選舉及補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條 第十四條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得但シ年齡二十五年以上ノ男子ニ非サル者、禁治產者及準禁治產者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ

代人ハ帝國臣民ニシテ年齡二十五年以上ノ男子ニ限ル

第九條第一項但書ニ當ル者、第十條第二項ノ規定ニ依ル公民權停止中ノ者及第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得ス又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選舉長又ハ分會長ニ示スヘシ

第二十八條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

二 現ニ市會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

連名投票ノ法ヲ用キタル場合ニ於テハ前項第一號及第六號ニ該當スルモノ並其ノ記載ノ人員選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ前項

第二號第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス
第二十九條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ分會長之ヲ決スヘシ

第三十條 市會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル

各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ

取り年齡同シトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ
第三十一條 選舉長又ハ分會長ハ選舉錄ヲ調製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ

記載シ選舉又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二人以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

各選舉區ノ選舉長ハ選舉錄^{第六條ノ市ニ於}ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ市長ニ報告スヘシ

選舉分會長ハ投票函ト同時ニ選舉錄ヲ本會ニ送致スヘシ
選舉錄ハ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第三十二條 當選者定マリタルトキハ市長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告知セシムヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數級又ハ數選舉區ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ市長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム

第十八條第二項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應スヘキ旨ヲ市長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス第三項ノ場合ニ於テ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス

第三十三條 市會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條ノ規定ヲ準用ス

第三十四條 選舉ヲ終リタルトキハ市長ハ直ニ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十二條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ、同條第三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ市長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十五條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

第三十六條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十四條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ七日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第二項若ハ第六項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ市長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二項若ハ前項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリ

モ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

市會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十七條 當選無効ト確定シタルトキハ市長ハ直ニ第三十條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ

選舉無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付亦同シ

議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選舉ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條第一項但書ノ規定ヲ適用セス

第三十八條 市會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ○其ノ上ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除クノ外

被選舉權ノ有無ハ市會之ヲ決定ス但シ禁治產者、準禁治產者、六年ノ懲

役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、市公民權ヲ停止セラレタル者又

ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ル者ニ付テハ市長之ヲ決定スヘシ

市長ハ市會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十六條第八項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三十九條 第二十一條及第三十六條ノ場合ニ於テ府縣參事會ノ決定及裁決ハ府縣知事、市會ノ決定ハ市長直ニ之ヲ告示スヘシ

第四十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

前項ノ罰則中選舉人ニ關スル規定ハ第二十七條ノ代人ニ之ヲ準用ス

第二款 職務權限

第四十一條 市會ハ市ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十二條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 市條例及市規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事

二 市費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第九十三條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 歲入出豫算ヲ定ムル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、加入金、市税又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

六 不動產ノ管理處分及取得ニ關スル事

七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

八 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十 市吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一 市ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第四十三條 市會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十四條 市會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選舉ヲ行フヘシ

第四十五條 市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

市會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ市長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十六條 市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ市長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

第四十七條 市會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

市會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ市會成立セス、招集ニ應セス若ハ意見ヲ提出セス又ハ市會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 市會ハ議員中ヨリ議長及副議長一人ヲ選舉スヘシ

議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第四十九條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代ハリ議長及副議長共ニ故障アルトキハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 市長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十一條 市會ハ市長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ招集スヘシ

市長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ市會ヲ招集スルコトヲ得招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得三日前迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

市會ハ市長之ヲ開閉ス

第五十二條 市會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ第五十四條ノ除外ノ爲半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 市會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ市會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十五條 法律勅令ニ依リ市會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外一人毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二人ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者ア

ルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ

取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第二十五條及第二十八條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

第一項ノ選舉ニ付テハ市會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル

第五十六條 市會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 市長ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聴禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十八條 議員ハ選舉人ノ指示又ハ囑託ヲ受クヘカラス

議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉スルコトヲ得

第六十條 傍聴人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聴席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聴人ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 市會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十二條 議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ調製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議録ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ市會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ

第六十三條 市會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ
會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ市會ノ議決ニ依リ三日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 市參事會

第一款 組織及選舉

第六十四條 市ニ市參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 市長

二 助役

三 名譽職參事會員

前項ノ外市參與ヲ置ク市ニ於テハ市參與ハ參事會員トシテ其ノ擔任事業ニ關スル場合ニ限り會議ニ列席シ議事ニ參與ス

第六十五條 名譽職參事會員ノ定數ハ○第六條ノ市ニ在リテハ八人其ノ他

○六人トス但シ

市條例ヲ以テ十

二人迄之ヲ増加スルコトヲ得

ノ市ニ在リテハ八人トス

名譽職參事會員ハ市會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ其ノ選舉ニ

關シテハ第二十五條第二十八條及第三十條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ

關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

名譽職參事會員中關員アルトキハ直ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

名譽職參事會員ノ任期ハ市會議員ノ任期ニ依ル但シ市會議員ノ任期滿了

ノ場合ニ於テハ後任名譽職參事會員選舉ノ日迄在任ス

第六十六條 市參事會ハ市長ヲ以テ議長トス市長故障アルトキハ市長代理者之ヲ代理ス

第二款 職務權限

第六十七條 市參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述フル事

三 其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件

第六十八條 市參事會ハ市長之ヲ招集ス名譽職參事會員定數ノ半數以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ招集スヘシ

第六十九條 市參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十條 市參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ第二項ノ除外ノ爲名譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍名譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席名譽職參事會員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

議長及參事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ市參事會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

議長及其ノ代理者共ニ前項ノ場合ニ當ルトキハ年長ノ名譽職參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第七十一條 第四十六條第四十七條第五十條第五十一條第二項及第五項第五十三條第五十五條第五十七條乃至第五十九條第六十一條並第六十二條第一項及第二項ノ規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス

第四章 市吏員

第一款 組織選舉及任免

第七十二條 市ニ市長及助役一人ヲ置ク但シ第六條ノ市ノ助役ノ定數ハ內務大臣之ヲ定ム

助役ノ定數ハ市條例ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得

特別ノ必要アル市ニ於テハ市條例ヲ以テ市參與ヲ置クコトヲ得其ノ定數

ハ其ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第七十三條 市長ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

內務大臣ハ市會ヲシテ市長候補者三人ヲ選舉推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘシ

市長ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十四條 市參與ハ名譽職トス但シ定數ノ全部又ハ一部ヲ有給吏員ト爲

スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第七十二條第三項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

市參與ハ市會ニ於テ之ヲ選舉シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七十五條 助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

助役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定メ○府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ市長又ハ市會ニ於テ不服アルトキハ内務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

助役ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十六條 市長有給市參與及助役ハ第九條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間其ノ市ノ公民トス

第七十七條 市長市參與及助役ハ第十八條第二項ニ掲ケタル職ト兼スルコ

請負ヲ爲スコトヲ得ス

トヲ得ス又其ノ市ニ對シ常ニ工事ノ請負、物件勞力其ノ他ノ供給契約ヲ爲シ又ハ其ノ市ノ爲金錢出納ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ス

市長ト父子兄弟タル緣故アル者ハ市參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

市參與ト父子兄弟タル緣故アル者ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第十八條第五項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十八條 市長有給市參與及助役ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

市長有給市參與及助役ハ會社ノ○役員又ハ事務員タルコトヲ得ス

第七十九條 市ニ收入役一人ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ副收入役ヲ置クコトヲ得

第七十五條第一項乃至第三項第七十七條第一項及第四項並前條ノ規定ハ收入役及副收入役ニ第七十六條ノ規定ハ收入役ニ之ヲ準用ス

市長市參與又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス收入役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第八十條 第六條ノ市ノ區ニ區長一人ヲ置キ市有給吏員トシ市長之ヲ任免ス

第七十七條第一項及第七十八條ノ規定ハ區長ニ之ヲ準用ス

第八十一條 第六條ノ市ノ區ニ區收入役一人又ハ區收入役及區副收入役各一人ヲ置ク

區收入役及區副收入役ハ第八十六條第一項ノ吏員中市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トノ間及其ノ相互ノ間ニ父子兄弟タル緣故アラサル者ニ就キ市長之ヲ命ス

區收入役又ハ區副收入役ト爲リタル後市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トノ間ニ父子兄弟タル緣故生シタルトキハ區收入役又ハ區副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ハ區收入役及區副收入役相互ノ間ニ於テ區副收入役ニ之ヲ準用ス

第八十二條 第六條ノ市ヲ除キ其ノ他ノ市ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

前項ノ區長及其ノ代理者ハ名譽職トス市會ニ於テ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

内務大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラス區長ヲ有給吏員ト爲スヘキ市ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ區ニ付テハ第八十條第八十一條第九十四條第二項第九十七條第四項第九十八條及第九十九條ノ規定ヲ準用スルノ外必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條 市ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス市會ニ於テ市會議員、名譽職市參事會員又ハ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス但シ委員長ハ市長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市參與若ハ助役ヲ以テ之ニ充ツ

常設委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十四條 市公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ市公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレタルトキ又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲市公民タル者ニシテ禁治產若ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ第十一條第二項若ハ第三項ノ場合ニ當ルトキ

亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

第八十五條 前數條ニ定ムル者ノ外市ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十六條 前數條ニ定ムル者ノ外第六條及第八十二條第三項ノ市ノ區ニ必要ノ市有給吏員ヲ置キ區長ノ申請ニ依リ市長之ヲ任免ス
前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二款 職務權限

第八十七條 市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表ス

市長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四 證書及公文書類ヲ保管スル事

五 法令又ハ市會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入金、市税又ハ夫役現品ヲ賦課徴收スル事

六 其ノ他法令ニ依リ市長ノ職權ニ屬スル事項

第八十八條 市長ハ議案ヲ市會ニ提出スル前之ヲ市參事會ノ審査ニ付シ其ノ意見ヲ議案ニ添ヘ市會ニ提出スヘシ

第八十九條 市長ハ市吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

第九十條 市會又ハ市參事會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メサルトキハ市長ハ府

縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ第一項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得但シ裁決ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二項ノ裁決又ハ前項ノ處分ニ不服アル市長市會又ハ市參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市會又ハ市參事會ノ議決公益ヲ害シ又ハ市ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メサルトキハ市長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ

前項ノ裁決ニ不服アル市長市會又ハ市參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條 市會成立セサルトキ、第五十二條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ市長ニ於テ市會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市參事會ニ於テ議決ヲ爲ストキハ市長市參與及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

市參事會成立セサルトキ又ハ第七十條第一項但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ市長ハ其ノ議決スヘキ事件ニ付府縣參事會ノ議決ヲ請フコトヲ得

市會又ハ市參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

市會又ハ市參事會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前四項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル市參事會又ハ府縣參事會ノ決定ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項及前三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ

第九十二條 市參事會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會成立セサルトキ又ハ市長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市參事會ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ市長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十三條 市長其ノ他市吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十四條 市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ一部ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ其ノ事務ノ一部ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得

市長ハ市吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九十五條 市參與ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ市ノ經營ニ屬スル特別ノ事業ヲ擔任ス

第九十六條 助役ハ市長ノ事務ヲ補助ス

助役ハ市長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ市長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第九十七條 收入役ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務及第九十三條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス副收入役數人アルトキハ豫メ市長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ收入役ノ事務ノ一部ヲ區收入役ニ分掌セシムルコトヲ得

副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第九十八條 第六條ノ市ノ區長ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ關スル市ノ事務及區ノ事務ヲ掌ル

區長其ノ他區所屬ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

區長故障アルトキハ區收入役及區副收入役ニ非サル區所屬ノ吏員中上席者ヨリ順次之ヲ代理ス

第一項及第二項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十九條 第六條ノ市ノ區收入役ハ市收入役ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ市及區ノ出納其ノ他ノ會計事務竝國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル

區長ハ市長ノ許可ヲ得テ區收入役ノ事務ノ一部ヲ區副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ區ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ區會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

市長ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

區副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市長ハ區收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ

區收入役及區副收入役ノ職務權限ニ關シテハ前四項ニ規定スルモノノ外市收入役及市副收入役ニ關スル規定ヲ準用ス

第一百條 名譽職區長ハ市長ノ命ヲ承ケ市長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助ス

名譽職區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第一百一條 委員ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル市ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第一百二條 第八十五條ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第一百三條 第八十六條ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

區長ハ前項ノ吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第一百四條 名譽職市參與、市會議員、名譽職參事會員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職市參與、名譽職區長、名譽職區長代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第一百五條 市長、有給市參與、助役其ノ他ノ有給吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第十六條 有給吏員ニハ市條例ノ定ムル所ニ依リ退職料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第十七條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退職料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十八條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退職料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ市ノ負擔トス

第六章 市ノ財務

第一款 財產營造物及市稅

第九條 收益ノ爲ニスル市ノ財產ハ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ

市ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第十條 舊來ノ慣行ニ依リ市住民中特ニ財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ市會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財產又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第十一條 市ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ市規則ヲ設クルコトヲ得

第十二條 市ハ第一百十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第十三條 市ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

市ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第十四條 財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ、入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 市ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第十六條 市ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

市ハ其ノ財產ヨリ生スル收入、使用料、手数料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第十七條 市稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 特別稅

直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

第十八條 三月以上市内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第十九條 市内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖市内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、市内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第二十條 納稅者ノ市外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ

其ノ收入又ハ市外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

市ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對シ附加稅ヲ賦課スル場合及住所滞在市ノ内外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ市稅ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百一十一條 所得稅法第五條ニ掲クル所得ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使

用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス
國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

前四項ノ外市稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二百二十二條 數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

市ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ市稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ
數人又ハ市ノ一部ヲ利スル財產ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第二百二十三條 市稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二百二十四條 數人又ハ市ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ市ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二百二十五條 夫役又ハ現品ハ直接市稅ヲ準率ト爲シ直接市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ直接國稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但

シ第百六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス
第二百二十六條 非常災害ノ爲必要アルトキハ市ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ

又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ市長、警察官吏又ハ監督官廳ハ市内ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ
第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服

アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二百二十七條 市稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢

シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スヘシ
第二百二十八條 市長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコ

トヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ市參事會ノ議決ヲ經ヘシ
市ハ特別ノ事情アル者ニ限り市稅ヲ減免スルコトヲ得

第二百二十九條 使用料手數料及特別稅ニ關スル事項ニ付テハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ條例中ニハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコ

トヲ得
財產又ハ營造物ノ使用ニ關シテハ市條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル

規定ヲ設クルコトヲ得

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十條 市税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ市長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十一條 市税、使用料、手数料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ市ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

滞納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セザルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三百二十二條 市ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、市ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限り市債ヲ起スコトヲ得

市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

市長ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲市參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二款 歲入出豫算及決算

第三百二十三條 市長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ遲クトモ年度開始ノ一月前ニ市會ノ議決ヲ經ヘシ

市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

豫算ヲ市會ニ提出スルトキハ市長ハ併セテ事務報告書及財産表ヲ提出スヘシ

第三百三十四條 市長ハ市會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第三百三十五條 市費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ市會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第三百三十六條 市ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得

第三百三十七條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第三百三十八條 市ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第三百三十九條 市會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ市長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得

命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

第四百十條 市ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル
第四百十一條 市ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ検査シ且毎會計年度少ク

トモ二回臨時検査ヲ爲スヘシ

検査ハ市長之ヲ爲シ臨時検査ニハ名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事會員二人以上ノ立會ヲ要ス

第四百十二條 市ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市長ニ提出スヘシ市長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ市會ノ認定ニ付スヘシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル市會ノ議決ト共ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ヲ市參事會ノ會議ニ付スル場合ニ於テハ市長市參與及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第四百十三條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第七章 市ノ一部ノ事務

第四百十四條 市ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中市ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財産又ハ營造物ノ屬スル市ノ一部ノ負擔トス

前二項ノ場合ニ於テハ市ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘシ

第四百十五條 前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アリト認ムルトキハ府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定シ區會ヲ設ケテ市會ノ議決スヘキ事項ヲ議決セシムルコトヲ得

第四百十六條 區會議員ハ市ノ名譽職トス其ノ定數、任期、選舉權及被選舉權ニ關スル事項ハ前條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

區會議員ノ選舉ニ付テハ市會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選舉人名簿

又ハ選舉若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選舉權ノ有無ノ決定ハ市長ノ爲スヘキ場合ヲ除クノ外市會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會議員ノ選舉ニ付テハ前條ノ市條例ヲ以テ選舉人ノ等級ヲ設ケサルコトヲ得

區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百十七條 第四百十四條ノ場合ニ於テ市ノ一部府縣知事ノ處分ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四百十八條 第四百十四條ノ市ノ一部ノ事務ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八章 市町村組合

第四百十九條 市町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ設クルコトヲ得

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ市町村組合ヲ設クルコトヲ得

市町村組合ハ法人トス

第五百十條 市町村組合ニシテ其ノ組合市町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ組合市町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第五百十一條 市町村組合ヲ設クルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ組合規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得

第五百十二條 組合規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル市町村、組合ノ共同事務、組合役場ノ位置、組合會ノ組織及組合會議員ノ選舉、組合吏員ノ組織及選任並組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クヘシ

第一百五十三條 市町村組合ヲ解カムトスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ解クコトヲ得

第一百五十四條 第五百十條第一項及前條第一項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第一百五十五條 第五百十條第二項及前條第二項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第五百五十五條 第四百九條第一項第五百十條第一項第五百一十一條第一項第五百五十三條第一項及前條第一項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村又ハ市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

組合費ノ分賦ニ關シ違法又ハ錯誤アリト認ムル市町村ハ其ノ告知アリタル日ヨリ三月以内ニ組合ノ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル市町村ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ組合ノ管理者ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五百五十六條 市町村組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ニ關スル規定ヲ準用ス

第九章 市ノ監督

第五百五十七條 市ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第五百五十八條 本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ノ監督ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル市ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百五十九條 本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第六百六十條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ

此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分決定裁定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第六百六十一條 監督官廳ハ市ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徵シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

監督官廳ハ市ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ市ノ監督ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第六百六十二條 内務大臣ハ市會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

市會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第六百六十三條 市ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

市長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ市ノ負擔トス

前二項ノ處分ニ不服アル市又ハ市長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六百六十四條 市長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ市費ヲ以テ辨償セシムヘシ

臨時代理者ハ有給ノ市吏員トシ其ノ給料額旅費額等ハ監督官廳之ヲ定ム

第六百六十五條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一 市條例ヲ設ケ又ハ改廢スル事
二 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ之ニ大ナル變更ヲ加フル事

第百六十六條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ
一 市債ヲ起シ並起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ第百三十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス
二 特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
三 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

四 使用料手数料及加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
第百六十七條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
一 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事

二 特別基本財産及積立金穀等ノ管理及處分ニ關スル事
三 第百十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事
四 寄附又ハ補助ヲ爲ス事
五 不動産ノ管理及處分ニ關スル事

六 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
七 第百二十二條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ市ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

八 第百二十四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲ス事
九 第百二十五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事
第百六十八條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第百六十九條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限り許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第百七十條 府縣知事ハ市長、市參與、助役、收入役、副收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ市吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲役處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ市長、市參與、助役、收

入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經市長ニ付テハ勅裁ヲ經ルコトヲ要ス
懲戒審査會ハ内務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

府縣名譽職參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補闕及任期並懲戒審査會ノ招集及會議ニ付テハ府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス
解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ市長ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

府縣知事ハ市長、市參與、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セララルコトヲ得ス
第百七十一條 市吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十章 雜則
第百七十二條 府縣知事又ハ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ内務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事又ハ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第百七十三條 本法ニ規定スルモノノ外第六條ノ市ノ有給吏員ノ組織任用分限及其ノ區ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十四條 第十三條ノ人口ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル
第百七十五條 本法ニ於ケル直接稅及間接稅ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第百七十六條 市又ハ市町村組合ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ市ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十七條 本法ハ町村制第百五十七條ノ地域ニ之ヲ施行セス

附則

第百七十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十九條 本法施行ノ際現ニ市會議員又ハ區會議員ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

本法施行ノ際現ニ市長助役又ハ收入役ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル任期滿了ノ日ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

第百八十條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス但シ復權ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本法ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス

第百八十一條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

町村制改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

町村制改正法律案

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第三款 町村條例及町村規則

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限

第三章 町村吏員

第一款 組織選舉及任免

第二款 職務權限

第四章 給料及給與

第五章 町村ノ財務

第一款 財産營造物及町村稅

第二款 歳入出豫算及決算

第六章 町村ノ一部ノ事務

第七章 町村組合

第八章 町村ノ監督

第九章 雜則

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

第二款 町村ハ從來ノ區域ニ依ル

並從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ爲サムトスルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得

テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ町村ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ財産アルトキハ其ノ處分ニ關シテハ前項ノ例ニ依ル

第四條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服

アル町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ府縣知事ハ府

縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル町村ハ行政裁判所ニ出訴

スルコトヲ得

第一款ノ裁定及前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ關

係町村ニ交付スヘシ

第一款ノ裁定及第二款ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコ

トヲ得

第五條 町村ノ名稱ヲ變更シ又ハ村ヲ町ト爲シ若ハ町ヲ村ト爲サムトスル

トキハ町村ハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

町村役場ノ位置ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第六條 町村内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ町村住民トス

○町村ノ
町村住民ハ本法ニ從ヒ○財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第七條 帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子二年以來町村ノ住民ト爲リ其ノ町村ノ負擔ヲ分任シ且其ノ町村内ニ於テ○直接國稅○年額二圓以上

○年額二圓以上
稅ヲ納ムルトキハ其ノ町村公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者、禁治產者、準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得
家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

町村公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ
町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ町村公民ノ要件中町村ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セス

町村公民ノ數町村會議員定數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ町村ハ町村公民ノ要件ニ關シ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八條 町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選舉セララル權利ヲ有シ町村ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ町村ハ一年以上四年以下其ノ町村公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以内其ノ者ノ負擔スヘキ町村稅ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 業務ノ爲常ニ町村内ニ居ルコトヲ得サル者

三 年齡六十一年以上ノ者

四 官公職ノ爲町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四年以上名譽職町村吏員、町村會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六 其ノ他町村會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者
前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條 町村公民第七條第一項ニ掲ケタル要件ノ一ヲ闕キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ其ノ公民權ヲ失フ

町村公民租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第三款 町村條例及町村規則

第十條 町村ハ町村住民ノ權利義務又ハ町村ノ事務ニ關シ町村條例ヲ設クルコトヲ得

町村ハ町村ノ營造物ニ關シ町村條例ヲ以テ規定スルモノノ外町村規則ヲ設クルコトヲ得

町村條例及町村規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第十一條 町村會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人ノ選舉ス議員ノ定數左ノ如シ

- 一 人口千五百未滿ノ町村ニ於テハ 八人
- 二 人口千五百以上五千未滿ノ町村ニ於テハ 十二人
- 三 人口五千以上一萬未滿ノ町村ニ於テハ 十八人
- 四 人口一萬以上二萬未滿ノ町村ニ於テハ 二十四人
- 五 人口二萬以上ノ町村ニ於テハ 三十人

議員ノ定數ハ町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得
議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口
ノ増減アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラ
ス

第十二條 町村公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第九條

第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ直接町村稅ヲ納ムル者其ノ額町村公民ノ最多ク納稅スル
者三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ第七條第一項ノ要件ニ當ラスト雖選舉
權ヲ有ス但シ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及第九條第
二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラ
ス

法人ニ關シテモ亦前項ノ例ニ依ル

直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ其ノ町村内ニ於テ納ムル直接國稅
額ニ依リ前二項ノ規定ヲ適用ス

前三項ノ直接町村稅及直接國稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會
計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十三條 選舉人ハ分チテ二級トス

選舉人中直接町村稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ
半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ二級トス但シ一級選舉人ノ
數議員定數ノ二分ノ一ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員定數ノ二分ノ一
ト同數ヲ以テ一級トス

一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ
同額ノ納稅者二人以上アルトキハ其ノ町村内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ
者ヲ以テ一級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シトキハ年長者ヲ以テシ年齡
ニ依リ難キトキハ町村長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ每級各別ニ議員定數ノ半數ヲ選舉ス

被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス各級ニ通シテ選舉セラルルコトヲ得

直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ第二項及第三項ノ納稅額ハ選舉人
ノ町村内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依ルヘシ

第二項第三項及前項ノ直接町村稅及直接國稅ノ納額ニ關シテハ前條第五
項ノ規定ヲ適用ス

特別ノ事情アリテ前七項ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ特
例ヲ設クルコトヲ得

第十四條 特別ノ事情アルトキハ町村ハ郡長ノ許可ヲ得區劃ヲ定メテ選舉
分會ヲ設クルコトヲ得二級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル
者亦同シ

一 所屬府縣郡ノ官吏及有給吏員

二 其ノ町村ノ有給吏員

三 檢事警察官吏及收稅官吏

四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

町村ニ對シ常ニ工事ノ請負、物件勞力其ノ他ノ供給契約ヲ爲シ若ハ町村
ノ爲金錢出納ノ取扱ヲ爲ス者又ハ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ町
及支配人

○無限責任社員、重役

村ニ於テ被選舉權ヲ有セス
父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ
同時ニ選舉セラレタルトキハ同級ニ在リテハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者
一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ等級ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキ
ハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉
セラレタル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失
フ
町村長又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ町村會議員ノ職ニ在ルコト
ヲ得ス

第十六條 町村會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ每級各別ニ町
村長抽籤シテ之ヲ定ム但シ解任ヲ要スル等級ニ關員アルトキハ其ノ關員
ヲ以テ之ニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

第十七條 町村會議員中關員ヲ生シ其ノ關員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ郡長町村長若ハ町村會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補關選舉ヲ行フヘシ

補關議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス
補關議員ハ前任者ノ選舉セラレタル等級ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第十八條 町村長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ

町村長ハ選舉期日前^四十五日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄町村役場又ハ告示シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ縱覽期間滿了後三日以内ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前四項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ町村長ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加フヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ第三條ノ處分アリタル場合ニ於テ府縣知事ノ指定スルモノヲ除クノ外其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日前四日迄ニ之ヲ修正スヘシ
選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ
選舉分會ヲ設クルトキハ町村長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名

簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接町村稅又ハ直接國稅ニ依リ其ノ者ノ納額ニシテ名簿ニ登錄セラレタル一級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ其ノ他ハ二級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ但シ直接町村稅又ハ直接國稅ヲ以テ等級ノ標準ト爲ササル町村ニ於テハ選舉長ノ定ムル所ニ依ル

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

第二項乃至第五項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ郡長ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用キ縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

第十九條 町村長ハ選舉期日^前ヨリ少クトモ七日^間前ニ選舉會場、投票ノ日時及等級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ等級及區劃ヲ告示スヘシ

選舉分會ノ選舉ハ本會同日時ニ之ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ同日時ニ選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ町村長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル選舉會又ハ選舉分會ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ
選舉ヲ行フ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル等級ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

第二十條 町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其取締ニ任ス

選舉分會ハ町村長ノ指名シタル吏員選舉分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

町村長ハ選舉人中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉

分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ設クヘシ
選舉立會人ハ名譽職トス

第二十一條 選舉人ニ非サル者ハ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者、選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選舉長又ハ分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セシムヘシ
前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉長又ハ分會長會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第二十二條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入リタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ但シ確定名簿ニ登錄セラレタル毎級選舉人ノ數其ノ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ
自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ町村長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ分會長少クトモ一人ノ選舉立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘシ

第二十三條 増員選舉及補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十四條 第十二條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得但シ年齡二十五年以上ノ男子ニ非サル者、禁治產者及準禁治產者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ
代人ハ帝國臣民ニシテ年齡二十五年以上ノ男子ニ限ル

第七條第一項但書ニ當ル者、第八條第二項ノ規定ニ依ル公民權停止中ノ

者及第九條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得ス又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス
代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選舉長又ハ分會長ニ示スヘシ
第二十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

二 現ニ町村會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

連名投票ノ法ヲ用キタル場合ニ於テハ前項第一號及第六號ニ該當スルモノ竝其ノ記載ノ人員選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ前項第二號第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

第二十六條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ分會長之ヲ決スヘシ

第二十七條 町村會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 選舉長又ハ分會長ハ選舉錄ヲ調製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ記載シ選舉又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二人以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

選舉分會長ハ投票函ト同時ニ選舉錄ヲ本會ニ送致スヘシ
選舉錄ハ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第二十九條 當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告

知スヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ兩級ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ町村長抽籤シテ之ヲ定ム

第十五條第二項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應スヘキ旨ヲ町村長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス第三項ノ場合ニ於テ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス

第三十條 町村會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十七條ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 選舉ヲ終リタルトキハ町村長ハ直ニ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第二十九條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ、同條第三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告知シ併セテ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第三十二條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

第三十三條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十一條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ七日以内ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

郡長ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣知事ノ指揮ヲ受ケ選舉ニ關シテハ第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ處分スルコトヲ得

前項ノ處分アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及町村會ノ決定ハ無効トス

第三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第二項若ハ第六項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及第二項又ハ前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二項第五項又ハ前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

町村會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル處分、決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十四條 當選無効ト確定シタルトキハ町村長ハ直ニ第二十七條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ

選舉無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付亦同シ

議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選舉ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十七條第一項但書ノ規定ヲ適用セス

第三十五條 町村會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ○其處セラレタル者ヲ除ク○外

ノ被選舉權ノ有無ハ町村會之ヲ決定ス但シ禁治產者、準禁治產者、六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、町村公民權ヲ停止セラレタル者又ハ第九條第三項ノ場合ニ當ル者ニ付テハ町村長之ヲ決定スヘシ

町村長ハ町村會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十三條第八項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三十六條 第十八條及第三十三條ノ場合ニ於テ府縣參事會ノ決定及裁決ハ府縣知事、郡長ノ處分ハ郡長、町村會ノ決定ハ町村長直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

前項ノ罰則中選舉人ニ關スル規定ハ第二十四條ノ代人ニ之ヲ準用ス

第三十八條 特別ノ事情アル町村ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ町村ヲシテ町村會ヲ設ケス選舉權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充テシムルコトヲ得

町村總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

第二款 職務權限

第三十九條 町村會ハ町村ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十條 町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 町村條例及町村規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事

二 町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第七十七條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 歲入出豫算ヲ定ムル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、加入金、町村税又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事

七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

八 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十 町村吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一 町村ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第四十一條 町村會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選舉ヲ行フヘシ

第四十二條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ

報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

町村會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ町村長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項町村會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十三條 町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ町村長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

第四十四條 町村會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

町村會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ町村會成立セス、招集ニ應セス若ハ意見ヲ提出セス又ハ町村會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス町村長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス町村長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 町村長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十七條 町村會ハ町村長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ町村長ハ之ヲ招集スヘシ

町村長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ町村會ヲ招集スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

町村會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得三日前述ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第四十八條 町村會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ第五十條ノ除斥ノ爲半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ

決スル所ニ依ル

第五十條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十一條 法律勅令ニ依リ町村會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一人毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス過半数ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二人ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及第二十五條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ町村會之ヲ決定ス

第一項ノ選舉ニ付テハ町村會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル

第五十二條 町村會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁止シタルトキ

二 議員二人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十三條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ

議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十四條 議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス

議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十五條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員

アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第五十六條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲

ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 町村會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム書記ハ議長之ヲ任免ス

第五十八條 議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ調製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議錄ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ町村會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 町村會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ三日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 町村吏員

第一款 組織選舉及任免

第六十條 町村ニ町村長及助役一人ヲ置ク但シ町村條例ヲ以テ助役ノ定數ヲ増加スルコトヲ得

第六十一條 町村長及助役ハ名譽職トス

町村ハ町村條例ヲ以テ町村長又ハ助役ヲ有給ト爲スコトヲ得

第六十二條 町村長及助役ノ任期ハ四年トス

第六十三條 町村長ハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス

助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム町村長職ニ在ラサルトキハ前項ノ例ニ依ル

名譽職町村長及名譽職助役ハ其ノ町村公民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル有給町村長及有給助役ハ第七條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間其ノ町村ノ公民トス

第六十四條 町村長ヲ選舉シ又ハ助役ヲ定メタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服

アルトキハ内務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

有給町村長及有給助役ハ三月前ニ申立ツルトキハ任意退職スルコトヲ得
町村長及助役ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

前項ノ認可ヲ受ケタル者ニ付テハ第八條第二項ノ規定ヲ適用セス

第六十五條 町村長及助役ハ第十五條第二項ニ掲ケタル職ト兼スルコトヲ得ス又其ノ町村ニ對シ常ニ工事ノ請負、物件勞力其ノ他ノ供給契約ヲ爲シ若ハ其ノ町村ノ爲金錢出納ノ取扱ヲ爲シ又ハ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ

○無限責任社員、重役及支配人
○役員タルコトヲ得ス

町村長ト父子兄弟タル緣故アル者ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス第十五條第五項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十六條 有給町村長及有給助役ハ郡長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

○重役又ハ支配人其ノ他ノ
○役員又ハ事務員タルコトヲ得ス

第六十七條 町村ニ收入役一人ヲ置ク但シ特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ副收入役一人ヲ置クコトヲ得

收入役及副收入役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

收入役及副收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

第六十三條第四項ノ規定ハ收入役ニ第六十五條第一項及前條ノ規定ハ收入役及副收入役ニ之ヲ準用ス

町村長又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス收入役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

特別ノ事情アル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十八條 町村ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコ

トヲ得
區長及其ノ代理者ハ名譽職トス町村會ニ於テ町村民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

第六十九條 町村ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス但シ委員長ハ町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ之ニ充ツ

常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 名譽職町村長及名譽職助役其ノ他町村民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ町村民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレタルトキ又

ハ第九條第三項ノ場合ニ當ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲町村民タル者ニシテ禁治產若ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ第九條

第二項若ハ第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ
前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判

ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

第七十一條 前數條ニ定ムル者ノ外町村ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ町村長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二款 職務權限

第七十二條 町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四 證書及公文書類ヲ保管スル事

五 法令又ハ町村會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入金、町村税又ハ夫役現品ヲ賦課徵收スル事

六 其ノ他法令ニ依リ町村長ノ職權ニ屬スル事項

第七十三條 町村長ハ町村吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得
其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

第七十四條 町村會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則
ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依
リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ其ノ執行ヲ要
スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ町村會其ノ議決ヲ改メサルトキハ町村長ハ府縣參事會
ノ裁決ヲ請フヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ再議ニ付セスシテ直ニ裁決
ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ第一項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得但シ裁決ノ申請アリ
タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル郡長ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ府縣參事會
ニ訴願スルコトヲ得其ノ裁決、第二項ノ裁決又ハ前項ノ規定ニ依ル府縣
知事ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ
得

町村會ノ議決公益ヲ害シ又ハ町村ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキ
ハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ
再議ニ付スヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ
前項ノ場合ニ於テ町村會其ノ議決ヲ改メサルトキハ町村長ハ郡長ノ處分
ヲ請フヘシ

前項ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決
ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項府縣參事會ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ
得

第二項及第四項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第七十五條 町村會成立セサルトキ又ハ第四十八條但書ノ場合ニ於テ仍會
議ヲ開クコト能ハサルトキハ町村長ハ郡長ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ町村會
ノ議決スヘキ事件ヲ處置スルコトヲ得

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル
町村會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル

町村長ノ處置ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコ
トヲ得

前三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告ス
ヘシ

第七十六條 町村會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要ス
ル場合ニ於テ町村會成立セサルトキ又ハ町村長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇
ナシト認ムルトキハ町村長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ
報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ町村長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ
訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七十七條 町村長其ノ他町村吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他
公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ町村ノ負擔トス但シ法令中別段ノ
規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 町村長ハ郡長ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ一部ヲ助役又ハ區長ニ
分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ル
コトヲ要ス

町村長ハ町村吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第七十九條 助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス
助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ町村長ノ
定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第八十條 收入役ハ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務及第七十七條ノ事務ニ
關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中
別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受ク
ヘシ但シ副收入役ヲ置キタル町村ハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス
町村長ハ郡長ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシム
ルコトヲ得但シ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意
ヲ得ルコトヲ要ス

第八十一條 區長ハ町村長ノ命ヲ承テ町村長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモ

ノヲ補助ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第八十二條 委員ハ町村長ノ指揮監督ヲ承ケ財産又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル町村ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第八十三條 第七十一條ノ吏員ハ町村長ノ命ヲ承ケ事務ニ従事ス

第四章 給料及給與

第八十四條 名譽職町村長、名譽職助役、町村會議員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職町村長、名譽職助役、區長、區長代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十五條 有給町村長、有給助役其ノ他ノ有給吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十六條 有給吏員ニハ町村條例ノ定ムル所ニ依リ退職料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第八十七條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十八條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ町村ノ負擔トス

第五章 町村ノ財務

第一款 財産營造物及町村稅

第八十九條 收益ノ爲ニスル町村ノ財産ハ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ町村ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第九十條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルコトハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財産又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ町村ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第九十一條 町村ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ町村規則ヲ設クルコトヲ得

第九十二條 町村ハ第九十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第九十三條 町村ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

町村ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十四條 財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ、入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條 町村ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第九十六條 町村ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ町村ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

町村ハ其ノ財産ヨリ生スル收入、使用料、手数料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第九十七條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 特別稅

直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第四百七十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

第九十八條 三月以上町村内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ町村稅ヲ

納ムル義務ヲ負フ

第九十九條 町村内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖町村内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、町村内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ町村内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百條 納稅者ノ町村外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

町村ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對シ附加稅ヲ賦課スル場合及住所滞在町村ノ内外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ町村稅ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百一條 所得稅法第五條ニ掲クル所得ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及

使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

前四項ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第一百二條 數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

町村ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ町村稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ

數人又ハ町村ノ一部ヲ利スル財產ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第一百三條 町村稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第一百四條 數人又ハ町村ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ町村ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第一百五條 夫役又ハ現品ハ直接町村稅ヲ準率ト爲シ直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ直接國稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第四百七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第一百六條 非常災害ノ爲必要アルトキハ町村ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ町村長、警察官吏又ハ監督官廳ハ町村内ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ郡長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第一百七條 町村稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ
第八八條 町村長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコト
ヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村ハ特別ノ事情アル者ニ限リ町村稅ヲ減免スルコトヲ得

第九九條 使用料手数料及特別稅ニ關スル事項ニ付テハ町村條例ヲ以テ之
ヲ規定スヘシ其ノ條例中ニハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコト
ヲ得

財產又ハ營造物ノ使用ニ關シテハ町村條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科ス
ル規定ヲ設クルコトヲ得

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ
其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第一百條 町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認
ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ町村長ニ異議ノ
申立ヲ爲スコトヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツ
ルコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定
ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服
アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料手数料及加入金ノ徵收並夫役現品ノ賦課ニ
關シ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提
起スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ
得

第一百十一條 町村稅、使用料、手数料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ町
村ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ
督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ
代フル金錢ヲ納メサルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急

迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シ
テ其ノ納付ヲ命スヘシ
前二項ノ場合ニ於テハ町村條例ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ徵收スルコト
ヲ得

滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ
完納セザルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追
徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願
シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第一百十二條 町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ
支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ町村債ヲ起スコト
ヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ
定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

町村ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得
前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款 歲入出豫算及決算

第一百十三條 町村長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ遲クトモ年度開始ノ
一月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ事務報告書及財產表ヲ提
出スヘシ

第一百十四條 町村長ハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲ス
コトヲ得

第一百十五條 町村費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支
出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼

續費ト爲スコトヲ得

第一百十六條、町村ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ

設クヘシ

豫備費ハ町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第十七條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ郡長ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第十八條 町村ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第十九條 町村會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ町村長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

第二十條 規定ハ收入役ノ事務ヲ兼掌シタル町村長又ハ助役ニ之ヲ準用ス

第二十一條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ検査シ且毎會計年度少クトモ二回臨時検査ヲ爲スヘシ

検査ハ町村長之ヲ爲シ臨時検査ニハ町村會ニ於テ選舉シタル議員二人以上ノ立會ヲ要ス

第二十二條 町村ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出スヘシ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ町村會ノ認定ニ付スヘシ

第六十七條第八項ノ場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル但シ町村長ニ於テ兼掌シタルトキハ直ニ町村會ノ認定ニ付スヘシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル町村會ノ議決ト共ニ之ヲ郡長ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ町村長及助役共ニ議長ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第二十三條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第六章 町村ノ一部ノ事務

第二十四條 町村ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中町村ノ財産又

ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財産又ハ營造物ノ屬スル町村ノ一部ノ負擔トス

前二項ノ場合ニ於テハ町村ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘシ

第二十五條 前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アリト認ムルトキハ郡長ハ町村會ノ意見ヲ徵シテ町村條例ヲ設定シ區會又ハ區總會ヲ設ケテ町村會ノ議決スヘキ事項ヲ議決セシムルコトヲ得

第二十六條 區會議員ハ町村ノ名譽職トス其ノ定數、任期、選舉權及被選舉權ニ關スル事項ハ前條ノ町村條例中ニ之ヲ規定スヘシ區總會ノ組織ニ關スル事項ニ付亦同シ

區會議員ノ選舉ニ付テハ町村會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選舉人名簿又ハ選舉若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選舉權ノ有無ノ決定ハ町村長ノ爲スヘキ場合ヲ除クノ外町村會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十七條 第二十四條ノ場合ニ於テ町村ノ一部郡長ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

第二十八條 第二十四條ノ町村ノ一部ノ事務ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 町村組合

第二十九條 町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テ組合内各町村ノ町村會又ハ町村吏員ノ職務ニ屬スル事項ナキニ至リタルトキハ其ノ町村會又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

町村ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル爲町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合内各町村ノ町村會及町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ前二項ノ町村組合ヲ設クルコトヲ得

町村組合ハ法人トス

第三百三十條 前條第一項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ關係町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

前條第二項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ減少セムトスルトキハ組合會ノ議決ニ依リ其ノ組合町村ノ數ヲ増加セムトスルトキハ其ノ町村組合ト新ニ加ハラムトスル町村トノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合町村ノ數ヲ増減シ又ハ一部事務ノ爲設クル組合ノ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第三百三十一條 町村組合ヲ設クルトキハ關係町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

組合規約ヲ變更セムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設クル組合ニ在リテハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設クル組合ニ在リテハ組合會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得

第三百三十二條 組合規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル町村、組合ノ共同事務及組合役場ノ位置ヲ定ムヘシ

一部事務ノ爲ニ設クル組合ノ組合規約ニハ前項ノ外組合會ノ組織及組合會議員ノ選舉、組合吏員ノ組織及選任並組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クヘシ

第三百三十三條 町村組合ヲ解カムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ解クコトヲ得

第三百三十四條 第三百三十條第一項第二項及前條第一項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係町村ノ協議、關係町村ト組合トノ協議又ハ組合

會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三百三十條第三項及前條第二項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事ノ定ム

第三百三十五條 第二百二十九條第一項及第二百三十條第一項及第二百三十一條第一項及第二百三十三條第一項並前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

組合費ノ分賦ニ關シ違法又ハ錯誤アリト認ムル町村ハ其ノ告知アリタル日ヨリ三月以内ニ組合ノ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル町村ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ組合ノ管理者ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三百三十六條 町村組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外町村ニ關スル規定ヲ準用ス

第八章 町村ノ監督

第三百三十七條 町村ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第三百三十八條 本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外町村ノ監督ニ關スル郡長ノ處分ニ不服アル町村ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第三百三十九條 本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四百十條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分決定裁定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得
異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依

リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第四百十一條 監督官廳ハ町村ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閱スルコトヲ得

監督官廳ハ町村ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村ノ監督ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第四百十二條 內務大臣ハ町村會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

町村會解散ノ場合ニ於テハ三月以內ニ議員ヲ選舉スヘシ

第四百十三條 町村ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

町村長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ郡長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ町村ノ負擔トス

前二項ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村長其ノ他ノ吏員ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四百十四條 町村長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ町村費ヲ以テ辨償セシムヘシ

臨時代理者ハ有給ノ町村吏員トシ其ノ給料額旅費額等ハ監督官廳之ヲ定ム

第四百十五條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 町村條例ヲ設ケ又ハ改廢スル事
- 二 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ之ニ大ナル變更ヲ加

フル事

第四百十六條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一 町村債ヲ起シ並起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ第百十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

四 使用料手數料及加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

第四百十七條 左ニ掲クル事件ハ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

一 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事

二 特別基本財産及積立金穀等ノ管理及處分ニ關スル事

三 第九十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事

四 寄附又ハ補助ヲ爲ス事

五 不動産ノ管理及處分ニ關スル事

六 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

七 第百二條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ町村ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

八 第百四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲ス事

九 第百五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

第四百十八條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍內ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第四百十九條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限り許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第五百十條 府縣知事又ハ郡長ハ町村長、助役、收入役、副收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ町村吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ戒懲處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ町村長、助役、收入役及副收入役ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ行フ

懲戒審査會ハ内務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

府縣名譽職參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補闕及任期並懲戒審査會ノ招集及會議ニ付テハ府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス

解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ郡長ノ處分ニ付テハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキ又ハ府縣知事ノ處分ニ付テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ町村長、助役、收入役及副收入役ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セラルルコトヲ得ス

第五百一十一條 町村吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九章 雜則

第五百一十二條 郡長ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數郡ニ涉ルモノアルトキハ府縣知事ハ關係郡長ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ郡長ヲ指定スヘシ其ノ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ内務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ郡長ヲ指定スヘシ

第五百一十三條 府縣知事又ハ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ内務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事又ハ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第五百一十四條 第十一條ノ人口ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五百一十五條 本法ニ於ケル直接税及間接税ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第五百一十六條 町村又ハ町村組合ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ町村ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ

之ヲ定ム

第五百一十七條 本法ハ北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セス

前項ノ地域ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ本法ニ代ハルヘキ制ヲ定ムルコトヲ得

附則

第五百一十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五百一十九條 本法施行ノ際現ニ町村會議員、區會議員又ハ全部事務ノ爲ニ設クル町村組合會議員ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

第六十條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス但シ復權ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本法ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス

第六十一條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣男爵平田東助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵平田東助君) 本案提出ノ理由ニ付イテ一言申上ゲマス、市制及町村制ハ御承知モゴザリマスル如ク、今日マデ施行以來既ニ二十有餘年ヲ經過イタシマシタ、其間段々實驗イタシマシタ所ノ上ニ徴シマシテ現實行ヒマスル所ノ行政機關及議決機關ニ於キマシテ多少ノ改正ヲ加ヘ以テ機能ノ敏活ヲ期スベキモノガゴザイマスルノト、又地方ニ於ケル所ノ上級機關ト下級機關トノ間ニ於テ往々聯絡ノ未ダ全カラザル所ガゴザイマスルノデ、是亦相互ノ間ノ聯絡統一ヲ全ウセムコトヲ期シマスル爲ニ改正ヲ致シマシタノト、其他ハ現行法中ニ於キマシテ市制及町村制ヲ通ジ、或ハ法文ノ未ダ全カラザルモノアリ、或ハ法文ノ明カナラザルガ爲ニ、往々疑義ヲ生ジ、或ハ惑ヒヲ起シ、爲ニ行政ノ活動ヲ闕クガ如キ憾アルガ爲ニ、是等ニ向ッテ改正ヲ加ヘムト欲スルノデゴザイマスル、地方自治ノ本體タルベキ市町村制ト致シ、又一面ニ於テハ國家行政ノ基礎タルベキ機關デアリマスノデ、從來永キ間ノ經驗ニ依リマシテ慎重ニ審査イタシマシタ所ノ結果ト致シ、今回改正ヲ加ヘ提出ヲ致シマシタ次第デゴザイマス、最早會期餘日モ無キ今日ニ於テ本案ヲ提出イタシマスノハ甚ダ遅レマシテ深ク遺憾ト致ス所デゴザイマスガ、審査上

己ムナキ次第遅レマシタノデゴザイマス、御審議ノ上幸ニ御協賛ヲ與ヘラ
レムコトヲ希望イタシマス

○伯爵廣澤金次郎君　チヨット政府ニ伺ヒマスガ、市制改正及町村制改正ハ
大體ニ於テ至極時宜ニ適シタ案ト考ヘマスルガ、付キマシテ伺ヒマスルノハ、
都制法案ナルモノガ、年々我ガ貴族院ニ於テ大多數ノ同意ヲ得テ提出ニナリ、
可決ノ上、衆議院ニ送付シタ案デアリマスルガ、殊ニ今日政府ニ居ラル、御
方ハ數年前ヨリ議員トシテ此都制法案ニ最モ熱心ナル御方デアルト考ヘルノ
デアリマス、ソコデ今日ノ場合、此市制及町村制ノ改正案ヲ提出セラル、ナラ
バ、是等モ無論同時ニ提出セラル、ダラウト我々考ヘテ居ッタデアリマス、
殊ニ今日ノ政府ハ多年貴衆兩院間ノ融和ヲ得マセナカッタ都制法案、或ハ之
ニ等シキ案ヲ提出スルニハ最モ好時機ニ居ラル、政府ダト考ヘマスルガ、又
政府ノ當局者モ政府ニ居ラル、ト政府ニ居ラレヌトニ拘ラズ、ソレ等ハ多年
ノ主張デアル以上ハ、無論政府ニ居ラル、以上、成ルベク速ニ是等ハ提出サ
レルト云フ御考ヘノアルト云フコトハ勿論ト考ヘマスルガ、市町村制ノ改正
ト共ニ東京市制ノ改正ハ即チ都制案ト冥合スル案ト申シテ宜シウゴザイマス
ルガ、都制法案ノ如キモ御提出ニナル所ノ御調査ガアッタノデアルカ、或ハ
最早會期切迫デアッテ本年ハ間ニ合ハヌガ、來年ニナッタラ都制法案ニ類ス
ル案ヲ出シテ東京市ノ市政ノ改善ヲ圖ルト云フ目的ハ政府ニアリマスルカト
云フコトヲ伺ヒタイト考ヘマス

〔政府委員一木喜徳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(一木喜徳郎君)　唯今、都制法案ヲ政府ニ於テ提出シナイノハ何
故デアルカ、又今後提出スルノ意思ガアルノデアルカト云フノ御質問デゴザ
イマシタ、東京市ノ如キ大都會ニ對シマシテ特別ナル制度ヲ設ケルト云フコ
トニ付イテハ、相當ノ理由アルモノト考ヘルノデアリマス、サリナガラ此大
都市ニ特ニ適用スベキ法律ガ出來マシテ、何レノ方面ニモ同等満足ヲ得ベキ
所ノ成案ハマダ今日持チマセヌノデ唯今御心配モゴザイマスル如ク、此貴族
院ニ於テ數年間、都制案ヲ提出シテ常ニ衆議院ノ同意ヲ得ナカッタト云フヤ
ウナ情況デゴザイマスカラ、今日未ダ此東京市ニ對スル特別ナ制度ニシテ兩
院ノ同意ヲ得、總テノ方面ニ満足ヲ得ベキ成案ヲ得ルト云フコトハ困難デゴ
ザイマス、然ルニ之ヲ實際ニ徴シテ見マスレバ、市ノ制度ノ改善ハ一日モ緩
ウスベカラザルモノガアルノデゴザイマス、政府ハ此際ニ於キマシテ全國ノ

市ニ通ズル適當ナル改正案ヲ提出イタシマシテ、幸ニ兩院ノ御協賛ヲ得マス
ル以上ハ之ニ依ッテ全國ノ市政ノ改善ヲ圖ル、即チ其中ニハ東京市ヲモ包含シ
テ居リマスノデアリマスカラ、之ニ依ッテ先ヅ出來ルダケ速ク實行シ得ベキ
途ヲ探ルガ宜カラウト云フ考ヘテ持ッテ居ルノデアリマス、ソレデ今日ニ於
キマシテ、マダ東京市ニ特ニ適用スベキ、又何レノ方面ニモ満足ヲ得ベキ成
案ヲ得マセヌ以上ハ、別ニ東京市ニ對シテ案ヲ提出スルト云フ考ヘハゴザイ
マセヌ、併シ將來ニ於キマシテ其時機到達イタシマスレバ、ソレハ別段ノコ
トデアリマス、今日ハ左様ナ考ヘテ持ッテ居リマス、殊ニ市制改正案ニ付キ
マシテハ市參事會ヲ議決機關ニ致スノ制ハ全ク都制ト趣旨ヲ同クシテ居リマ
ス、此點ニ付イテ市政ノ改善ヲ圖ッテ行キタイト云フ考ヘテ持ッテ居リマス
○伯爵廣澤金次郎君　モウ一應伺ヒマス、唯今ノ御説明ニ依リマス、兎ニ
角、東京市ノミナラズ、全國各市ヲ通ジテ市制中ニ改正スベキ點ガ多々アル、
特ニ今日全國ノ市ニ互リマシテ之ガ制度ヲ改善スル必要アルガ故ニ全國ニ互
リマシテ市制改正案ヲ御提出ニナッタト云フコトデアリマス、而シテ東京市
モ無論市デアリマスカラ、全國ニ通ジマス、市制改正ノ結果ハ無論、東京市
ニ及ボスト云フコトハ本員モ承知シテ居リマス、政府ハ東京市モ全國ノ市ト
同様、市制改正ニ依ッテ市ノ改善ヲ出來ルダケ十分ニ是デ試ル、而シテ又是等
ニ付イテ特別市制ガ必要ナリト云フ時機ニ至ッタラ都制法案ノ如キモノヲ提
出スルト云フ意味ノ御説明ノヤウニ伺ヒマスガ、果シテ私ノ解釋イタシマス
通りデ宜シイカドウカト云フコトヲ伺ヒタイト存ジマス

〔政府委員一木喜徳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(一木喜徳郎君)　御答ヘテ申シマス、先刻申上ゲマシタ趣旨ハ、
先ヅ今日ノ所デ實行シ得ベキ改正方法ハ成ルベク速ク行ヒマシテ、東京市モ
又市ノ一デアリマスカラ、此一般ノ制度ノ改善ニ依ッテ其發達ヲ促シテ行キ
タイト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレデ他日都制ヲ提出スルヤ否ヤト云フコ
トハ今日ニ於テ明言イタシカネマスノデ、即チ今デハ此市制ノ改正ヲ以テ其
改善ヲ圖ッテ效果ヲ擧ゲタイト考ヘテ居リマス、又左様ナ希望ヲ持ッテ居リ
マス

○谷新助君　改正法第六十四條ノコトニ付キマシテ、政府委員ニ御伺ヒ致シ
タイノデゴザイマス、此六十四條ニ「市長」「助役」「名譽職參事會員」トアリ
マス其外ニ又「市參與」トアリマスガ、此「市參與」ト云フモノハ矢張り名

譽職デアリマスカ、但シ又市長助役同様ナモノデアリマスカ、チヨットソレヲ御伺ヒ致シタウゴザイマス

〔政府委員一木喜徳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(一木喜徳郎君) 御答ヘヲ申上ゲマス、唯今ノ御尋ネハ市參與ナルモノハ名譽職デアアルカ否ヤト云フ御尋ネデゴザイマシタガ、市參與ハ名譽職ヲ本體ト致シマス、サリナガラ實際ノ必要ニ應ジマシテ之ヲ有給職トスルコトモ條例ノ規定ニ據ッテ出來マス、左様ナコトニナッテ居リマス

○男爵波多野敬直君 此兩案ハ重要ナ案デゴザイマスカラ、特別委員ヲ十五名ニ致シタイ

○男爵關義臣君 賛成

○男爵眞田幸世君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 波多野男爵ノ特別委員ノ數ヲ十五名トスル說ニ御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十三、帝國學士院學術獎勵金特別會計法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、特別委員長清棲伯爵

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕
帝國學士院學術獎勵金特別會計法案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十四年三月十五日

右特別委員長

伯爵 清棲 家教

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵清棲家教君演壇ニ登ル〕

○伯爵清棲家教君 唯今問題ニナリマシタ所ノ帝國學士院學術獎勵金特別會計法案ノ委員會ノ模様ヲ申上ゲマス、委員會ハ昨日開キマシテ政府委員ノ辯明ヲ聞キマシテゴザイマスガ、諸君ノ御承知ノ如ク、第一讀會ノ場合ニ於キマシテ政府委員ヨリ辯明ヲ致シマシタ通りデゴザイマスカラ、其事柄ニ付イテ

ハ省略イタシマス、即チ其要旨ト致シマス所ハ昨年ノ七月ニ特別ノ思召ヲ以テマシテ學術獎勵ノ爲ニ向フ十箇年間御下賜金ガアルノデゴザイマス、本年モ矢張り御下賜金ガアル譯デゴザイマス、即チ日程ノ第一ニ載ッテ居リマスル所ノ追加豫算ノ中ニ這入ッテ居リマス、故ニ其御下賜金ト及有志ノ寄附金トヲ以テマシテ、サウシテ此學術獎勵金ニ使フト云フ所ヨリシマシテ、一般ノ歳入歳出トシマセズ之ヲ特別會計ト致シマシテ、サウシテ學術ノ爲ニ特ニ功勞アリ或ハ顯著ナル事柄ヲ致シタ者ニ相當ノ賞與ヲ致サウト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、付キマシテハ此學士院ニ於キマシテ其賞與ヲスル所ノ規則ガ出來テ居リマス、其規則ニ據リマシテ相當ナル機關ヲ經マシテ、其機關ノ相談ニ依リマシテ、サウシテ賞與スルト云フコトニナッテ居リマス、故ニ極ク必要ナル案ト認メマシテ委員會ニ於キマシテハ全會一致ヲ以テ可決スベキモノト議了イタシタ次第デアリマス、右様ナ次第デゴザイマシテ、特別ナル御思召ニ依ル所ノ御下賜金ヲ土臺トシテ即チ特別會計トスルト云フコトデアリマシテ、極ク簡單ナ極ク明瞭ナ法案デゴザイマスカラ、願ハクハ讀會省略ヲ以テ決議アラムコトヲ望ム次第デゴザイマス

○田中芳男君 讀會省略ニ賛成イタシマス

○伊澤修二君 讀會省略ニ賛成

○岩村兼善君 賛成

○男爵金子有卿君 賛成

○子爵堤功長君 賛成

○伯爵大原重朝君 賛成

○男爵辻新次君 賛成

○男爵淺野守夫君 賛成

○岩元信兵衛君 賛成

○子爵板倉勝達君 賛成

○子爵土御門晴榮君 賛成

○子爵大田原一清君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 清棲伯爵ノ讀會省略ノ動議ハ定規ノ賛成者ガゴザイマシタ、讀會省略ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案特別委員長ノ報告通りデ御異存ゴザイマセス
カ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ
○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十四、朝鮮總督府鐵道及通信官署ニ於テ取扱フ現金ノ出納ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、第十五、明治四十年法律第四十八號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、第十六、明治四十年法律第四十九號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、特別委員長清閑寺伯爵

朝鮮總督府鐵道及通信官署ニ於テ取扱フ現金ノ出納ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
明治四十四年三月十五日

右特別委員長
伯爵 清閑寺 經房
貴族院議長公爵徳川家達殿

明治四十年法律第四十八號中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
明治四十四年三月十五日

右特別委員長
伯爵 清閑寺 經房
貴族院議長公爵徳川家達殿

明治四十年法律第四十九號中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
明治四十四年三月十五日

右特別委員長
伯爵 清閑寺 經房

貴族院議長公爵徳川家達殿

「伯爵清閑寺經房君演壇ニ登ル」

○伯爵清閑寺經房君 御報告ニ先ダチマシテ、チヨット御斷リヲ申上ゲテ置キマスガ、私ハ一兩日前カラ風ヲ引キマシテ、イタク咽喉ヲ傷メテ居リマスノデ、十分ニ大キナ聲ヲ出スコトガ出來マセヌカラ、定メテ御聽キヅライコトデアラウト存ジマスケレドモ、ドウカ惡シカラズ御承知ヲ願ヒマス、第一、御報告イタシマスルコトハ、朝鮮總督府鐵道及通信官署ニ於テ取扱フ現金ノ出納ニ關スル法律案ノ委員會ノ情況竝ニ結果デゴザイマス、此法案ノ趣旨ト致シマス所ハ、此度朝鮮總督府ノ鐵道局、又ハ郵便局ニ於キマシテ官吏ノ外事務員、即チ雇員ヲ使用シマシテ、其雇員ニ現金ヲ取扱ハセルト云フコトニナルノデゴザイマス、既ニ此雇員ニモ現金ヲ取扱ハセルト云フコトニナリマシタ以上ハ、總テノ官金ヲ扱ヒマスル所ノ官吏ニ適用イタシマスル會計法ノ規定ヲ此雇員ニモ準用イタシマシテ、十分ニ責任ヲ有タセルト云フコトハ至當ノコト、又是非サウナラナクテハナラヌト云フノデ、此法案ガ今回提出サレタヤウニ承リマシタ、右様ナ次第此法案ハ御承知ノ如ク名稱ハ隨分長キ法案デゴザイマスケレドモ、趣意ハ至ッテ簡明デゴザイマスノデ、委員會ニ於キマシテハ二三微細ナ質問ハゴザイマシタナレドモ、別ニ反對ノ意見モ無ク、全會一致ヲ以テ可決イタシマシタ、此段御報告申上ゲマス、ソレカラ今度ハ第四十八號中改正法律案デゴザイマス、此案ハ第四十九號中改正法律案ト同ジ性質ノモノデゴザイマス、唯違ヒマス所ハ第四十八號ノ方ハ純粹ノ官吏ノ恩給及扶助料ヲ規定シタモノデゴザイマス、第四十九號ノ方ハ純粹ノ官吏デナイ謂ハバ……政府委員ノ御話ニ依リマス、是ハ待遇官吏トデモ云フベキ性質ノモノデアルト云フ御話デゴザイマシタガ、其巡查、看守、女監取締等ノ退隱料、竝ニ遺族扶助料ヲ規定シタモノデアルト云フダケノコトデ、詰リ同ジヤウナモノデゴザイマスルカラ、此兩案、即チ四十八號ト四十九號ト此兩案ヲ束ネテ御報告ヲ致シマス、一體此二案ハドウ云フ必要ガゴザイマシテ提出ヲサレタカト申シマス、御承知ノ如ク朝鮮ガ昨年我國ニ合併セラレマシタ結果、唯今マデ統監府デアッタモノガ總督府ト云フ名稱ニ變リマシタ、從ッテ此官制ノ上ニ餘程面倒ヲ來タシマシタノデ、茲ニ此兩法案ノ改正ヲ見ルニ至ッタヤウナ次第デゴザイマス、大體私ハ斯様ニ承リマシタ、ソレデ衆議院ニ於キマシテモ此改正ハ至極當然ノコト、認メマシテ第四十八號ノ

方ニ對シマシテハ原案ノ通り可決イタシマシタ、第四十九號ノ方ニ於キマシ
テハ是ハ諸君ノ御手許ニゴザイマスカラ、御覽デゴザイマセウガ、政府ノ案、
即チ原案ニハ唯「内地人タル巡查」ト斯ウゴザイマシタガ、其「巡查」ト云
フ上ヘ持ッテ行ッテ「警部補」ト云フ者ヲ入レマシタ、ソレカラ附則ノ第二
項ニゴザイマスル警部補ト云フ者ハ御承知ノ如ク官吏デアリマス、其官吏タ
ル警部補ト云フ者ヲ入レマシタガ爲ニ退職ト云フ文字バカリデハイケナイ、
官吏ノ謂ハユル隱退ヲ致シマスル場合ニ用キル所ノ言葉、即チ「退官」ト云フ
コトガ無クテハナラヌト云フノデ、「退職」ノ上ヘ持ッテ行ッテ「退官」ト云
フコトヲ入レマシタノデゴザイマス、勿論ハ至當ノ修正デゴザイマスデ、
政府ノ方ニ於キマシテモ無論同意ヲサレタト云フコトデゴザイマス、右様ナ
譯デ、此四十八號モ四十九號モ至ッテ簡單ナモノデゴザイマシテ、此案ニ對
シテモ委員會ニ於テハ何ノ質問モ無ク迅速ニ可決イタシタノデゴザイマスル
デ、ドウカ本議場ニ於キマシテモ委員會ノ決議通り速ニ御可決アラムコトヲ
希望イタシマス、此段御報告イタシマス

○谷森眞男君 唯今ノ三案ハ何レモ簡單ナモノテゴザイマスカラ、讀會ヲ省
略セラレテ可決サレムコトヲ希望イタシマス

○男爵關義臣君 讀會省略賛成

○伯爵廣澤金次郎君 讀會省略賛成

○男爵安場末喜君 賛成

○男爵眞田幸世君 賛成

○田中芳男君 賛成

○子爵梅小路定行君 賛成

○男爵德川厚君 賛成

○男爵南光利君 賛成

○子爵本莊壽巨君 賛成

○伯爵萬里小路通房君 賛成

○男爵野田豁通君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 谷森君ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ賛成者ガアッ
タト認メマス、讀會省略ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 御異議ガゴザイマセヌケレバ三案トモ東ネテ採決
ヲ致シマス、三案トモ特別委員長ノ報告通りデ御異存ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十七、東京市及大阪市ニ關スル法律案、
衆議院提出、第一讀會

東京市及大阪市ニ關スル法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

第一條 東京市及大阪市ノ公共事務ニ付テハ特ニ内務大臣直接ニ之ヲ監督
シ市制中府知事又ハ府參事會ノ職權ニ屬スヘキモノハ總テ内務大臣ニ專
屬ス

第二條 前條ノ事務ニ關シ市制中府知事又ハ府參事會ヲ經由シ行政裁判所
ニ出訴スヘキモノハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三條 市制中府參事會ニ於テ市會又ハ市參事會ニ代リ處分スヘキ場合ハ
市長内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ處分シ次ノ市會ニ報告スヘキモノトス

第四條 吏員ノ懲戒ニ關スル事項ハ市長ノ行フモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定
ム

第五條 本法ニ規定スルモノノ外ハ總テ市制ヲ適用ス

附則

本法ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○伯爵廣澤金次郎君 此東京市及大阪市ニ關スル法律案、是ハタシカ速記録
デ承知イタシマスル所ニ依リマス、政府ハ反對ト承知イタシマスガ、一應
御反對ノ理由ヲ承リタイト考ヘマス

〔政府委員一木喜德郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(一木喜德郎君) 本案ニ對シマシテハ政府ハ衆議院ニ於テ反對ノ

意見ヲ表明イタシテ置キマシタ、ソレデ東京市ノ如キ大都會ニ於ケル制度ニ付キマシテハ、先刻廣澤伯爵ノ御尋ネニ對シテ御答ヘヲ致シタ如キ考ヘヲ持ッテ居リマス、此案ヲ提出セラレタ所ノ趣旨ヲ、提出ノ理由ニ依ッテ承知イタシマス所ニ依リマスレバ、東京市ニ付キマシテハ貴族院ヨリ都制案ノ提出ガアリ、衆議院ニ於テモ東京市制案ヲ提出シテ、屢、各、其院ノ議決ヲ經テ居ル、然ルニ是等ノ兩案ノ多クノ點ニ於テ一致シテ居ル所ガアルニ拘ラズ、何レモ成立ニ至ッテ居ラナイ、ソレデ此度ハ其兩案ノ中ノ相一致シテ居ル點、即チ監督ノ階級ヲ東京市ノ如キニ對シテハ、一階級ニスルト云フダケノ趣旨ノ改正案ヲ提出シタノデアルト云フノガ、提出ノ當時、提出者ノ説明セラレタ趣旨デアルト承知シテ居リマス、ソレデ東京市ノ如キ大都會ニ對シマスル制度ヲ特ニ定ムルト云フコトニ付イテノ意見ハ先刻述べタ通りデアリマスガ、此案ハ衆議院ニ於テ十分慎重ニ審査セラレタコト、信ジマスケレドモ、不幸ニシテ政府ノ見ル所デハ、マダ十分ニ支障ノ點ヲ除カレテ居ラナイト存ジマス、デ其理由ヲ簡單ニ申上ゲマスレバ、本案ハ自治事務ニ限ッテ、之ヲ内務大臣ノ直接ノ監督ノ下ニ立タシメルト云フ、斯ウ云フ案デアリマス、然ルニ第一ニハ今日ノ行政ノ組織ニ於キマシテハ、各地方ハ之ヲ府縣ニ別ッテ、府縣知事ハ其ノ府縣ノ區域内ニ於ケル一切ノ行政事務ヲ統轄シテ居リマス、就中自治團體ニ對シマスル所ノ監督事務ハ府縣知事ノ職責ノ中デ最モ重大ナルモノデアリマス、然ルニ東京市モ東京府ノ管轄區域中ニアリナガラ其自治事務ニ限ッテ内務大臣ノ直轄タラシメルト云フノハ、行政ノ系統ヲ正シクスル所以デナイト思ヒマス、又モウ一ツニハ自治事務ト國政事務ト互ニ相關聯スル所ノ多イノハ申上ゲルマデモナイコトデアアル、然ルニ自治事務ノミニ限ッテ、東京府知事ハ其監督權ヲ剝ガレテ、國政事務ノミニ付イテ依然、監督ノ責任ヲ有ツト云フコトニナリマスカラ、此二ツノ相關聯シタモノヲ引離シテ、其ノ一方ノミニ監督ノ職責ヲ有タシメルト云フコトハ、實行上甚ダ困ル所デアリマス、ソレカラ市ノ經濟ニモ及ブコトデアリマシテ、市ノ經濟ハ専ラ自治ニ屬スルモノデアリマスカラ、是等ノ場合ニ於キマシテモ、國政事務ニ對スル監督ト、自治事務ニ對スル監督ト引離シタ結果、極メテ不便ナルコトガアルノハ特ニ申上ゲヌデモ自ラ明カデアラウト思ヒマス、斯様ナ點ガアリマスノデ、此案ハ衆議院ニ於テ十分熟慮セラレタデアリマセウガ、遺憾ナガラ未ダ完全ナル案ト認メルコトハ出來ヌト思ヒマス、要スルニ先刻申シマ

シタ通り、東京市ノ如キ大都會ニ對シテハ未ダ十分満足スベキ成案ノ無い今日デアリマスカラ、政府ハ本案ニ對シテハ同意ヲ表シカネルノデアリマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十八、地租條例中改正法律案、衆議院提出、第一讀會、第十九、登録稅法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會、第二十、國稅徵收法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

地租條例中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

地租條例中左ノ通改正ス

第十二條第一項第二號中第四期ヲ左ノ如ク改ム

第四期 翌年六月一日ヨリ地租額四分ノ一
同六月三十日限

登録稅法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

登録稅法中左ノ通改正ス

第十九條第二號中「公共團體ニ於テ公用ニ供」ノ下ニ「シ模範造林ニ充テ又ハ市町村若ハ公立學校ノ基本財産ニ供」ヲ加フ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國稅徵收法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十四年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

國稅徵收法中左ノ通改正ス

第四條ノ二、第四條ノ三、第四條ノ四、第九條、第十條、第十二條、第十七條、第二十三條ノ一、第二十八條、第二十九條及第三十一條中「督促手数料」ヲ「督促手数料、延滞金」ニ改ム

第五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項徵收ノ費用トシテ地租ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ千分ノ七其ノ他ノ國稅ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

附則

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 此衆議院提出ノ三法案ニ對シテ政府ノ見ル所ヲ一應申上ゲマス、地租條例中ノ改正案ハ、是ハ今日、田租ノ第四期ノ納期ガ五月デアリマスモノヲ六月ニ延バシテ改メヤウト云フ案デアリマス、デ納期ヲ延バシマスコトハ、國庫ノ收支ノ關係カラ甚ダ都合ガ宜クナイト云フコトハ是ハ申上ゲルマデモナイコトデアリマス、納人ニ取ツテハ或ハ一箇月延ビタラバ幾ラカ便利デアラウトハ思ヒマスガ、五月六月ト云フ間ニ於テ六月ト云フノハ半年ノ決算期デアリマスカラ、隨分資金ノ要ル時デアリマスノニ、其六月ニ納期ヲ移スト云フコトハ納人ニ取ツテ必シモ便利デアルトハ言ハレナイト思ヒマス、ソレ故ニ地租條例中改正案ニハ政府ハ不同意デアルノデアリマス、ソレカラ登録稅法中ノ改正案、是ハ今日公共團體ガ土地ヲ取得イタシマシタ場合ニ、其目的ガ公用ニ供スル目的デアリマスレバ、登録稅ヲ取ラヌト云フコトニナツテ居リマス、此特典ヲバ公共團體ガ模範造林ノ用ニ充テル爲ニ土地ヲ取得シタ場合、及市町村若クハ公立學校ガ基本財産ニスル爲ニ土地ヲ取得シタ場合ニモ及ボシテ、登録稅ヲ免除シタイト云フノガ衆議院ノ提出案ノ趣意デアリマス、其一ツデアル所ノ模範造林ノ爲ニスルモノニ免稅スルト云フコトハ、是ハ今日デモ模範造林ノ爲ニスルモノハ、公用ニ供スルモノナリトシテ、政府ハ登録稅ヲ徵收シナイノデアリマスカラ、斯様ナ改正案ハ其必要ヲ見スト云フ意味ニ於テ改正ノ要ガ無イト申サナケレバナリマセヌ、ソレカラ基本財産ノ事ニ付イテハ大體公用ニ供スルモノハ稅ヲ取ラヌガ、私用ニ供スルモノハ稅ヲ取ルト云フ、斯ウ云フ主義ヲ今日ハ執ツテ居リマス、

凡ソ租稅ハ成ルベク國民全體カラ除外例ナク徵收スルノデアツテ初メテ公平デアリマスガ、或ルモノハ稅ヲ取り或ルモノハ稅ヲ取ラヌト云フノハ是ハ餘程重大ナ理由ガ無ケラネバ斯ノ如ク取扱ヲ異ニスベキモノデハナイノデアリマス、然ルニ市町村ノモノト雖モ又學校ノモノト雖モ、之ヲ公用ニ供セズシテ是ヨリ收益スル目的デアリマス以上ハ、之ニ對シテ租稅ヲ免除スルト云フ理由ハ生ゼスノデアリマスカラ、此點ニ於テ政府ハ反對デアリマシテ、此改正案全體ニ對シテ反對スルノデアリマス、ソレカラ國稅徵收法中ノ改正、是ハ色々ノ點ガアリマス、改正ノ要點ハ是マデ營業稅ノ如キ、所得稅ノ如キ、國稅ヲ徵收スル場合ニハ市町村ニ對シテ百分ノ四ノ金額ヲ交付シテ居リマス、然ルニ地租ニ付イテハ何等交付ヲ致サヌデ居タト云フ事柄ヲ改メテ、今回地租ニ對シテモ徵收金ノ千分ノ七ダケノ交付金ヲ與ヘヤウ、其他ノ國稅ニ付イテハ從來ノ通り交付金ヲ與ヘヤウト云フノガ此改正案ノ重モナル點デアリマス、是マデ地租ニ付イテ交付金ヲ與ヘテ居リマセヌノハ、全ク沿革上カラ來タコトデアリマシテ、道理ヲ申シマシタナラバ、地租ニ付イテモ其他ノ國稅ニ付イテモ、徵收手数料ヲ交付スルノガ當リ前デアラウト思ヒマス、ソレ故ニ衆議院ガ此點ヲ改正シヤウト企テラレタノハ理窟ハ十分アルコト、思ヒマスガ、若シ斯ウ云フ改正ヲセラレルナラバ、願ハクハ國稅全體ニ於テ、例ヘバ百分ノ二トカ云フヤウナ工合ニ平等ニ交付セラレタ方ガ宜カッタデアラウト思ヒマスケレドモ、左様イタスト云フト今日所得稅ナリ營業稅ナリノ多キ地方ニ於テハ國庫カラ受ケテ居ル交付金ガ減ジテ、從ツテ其市町村ノ財政ニモ幾ラカ關係スルト云フ意味ヲ以テ其所ニ顧慮シテ衆議院ニ於テハ其交付金ハ從來ノ通りニシテ、而シテ地租ニ付イテモ其手數ヲ償フダケノ交付金ヲ與ヘヤウト云フ改正案デアリマスノデ、現狀ヲ顧ミテ穩ニ此改正ヲ實行シヤウト云フ意味デアラウト思ヒマスカラ、此衆議院ノ提出案ニ對シテ國稅徵收法ノ改正案ニ對シテハ政府ハ全然同意ヲシテ居ル次第デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 此際諸君ニ御諮リヲ致シマス、議事日程ノ第七、第十八、第十九、第二十ヲ同一委員ニ付託シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 第十一、第十二、第十七、此三案ハ同一委員デ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十一、砂糖消費税法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告、特別委員長寺島伯爵

砂糖消費税法中改正法律案

右別冊ノ通り修正セリ依テ及報告候也

明治四十四年三月十五日

右特別委員長

伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵德川家達殿

〔小字ハ特別委員ノ修正、ハ同削除ノ符號〕

砂糖消費税法中左ノ通改正ス

第三條中第一種ヲ左ノ如ク改ム

第一種 砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲 樽入黒糖、同白下糖

百斤ニ付 金二圓

乙 樽入白下糖但シ分蜜シタルモノ、白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク

百斤ニ付 金二圓五十錢

丙 其ノ他ノモノ

百斤ニ付 金三圓

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔伯爵寺島誠一郎君演壇ニ登ル〕

○伯爵寺島誠一郎君 此砂糖消費税法中改正法律案ハ衆議院提出ノ案デゴザイマシテ、今日我國デ消費シテ居リマスル砂糖總額約五億万斤ノ百分ノ四ニ當ッテ居リマス年額二千万斤ノ白下糖ガ、今日ノ砂糖消費税法ニ於キマシテハ第一種ノ乙ノ部類ニ組入レテ居リマスルノデ、百斤ニ付イテ三圓ノ課税ヲ拂フコトニナッテ居リマスルノハ、甚ダ白下糖ノ爲ニハ高過ギル、之ガ爲ニ其白下糖ノ生産ハ萎靡イタシマシテ、生産地方ハ甚ダ困難ノ状態ニ陷ッテ來ル、而シテ遂ニ其業ヲ廢セムトスル有様デアルカラ、全般ノ砂糖ニ惡ルイ影響ヲ及ボサナイ以上ハ、寧ロ減税ヲシテ此特殊ノ砂糖即チ白下ヲ少クト

モ現状維持ノ程度ニ置クヤウニシタ方ガ經濟政策ノ上カラ考ヘテ宜シイノデアラウ、是ガ衆議院ノ理由デアルヤウニ我々ハ了解イタシマシタ、ソコデ左様デアルガ故ニ、此白下糖ヲ甲ノ樽入黒糖ノ部類ニ入レテ、一圓ノ減税ヲ行ッテ二圓ニシテ欲シイト云フコトガ即チ此案ノ提出ノ重モナ理由デアルト我々ハ了解シタノデアリマス、ソレニ對シマシテ政府ハ第一、ソレデハ歳入ガ減少スルコトニナル、第二ハ黒糖百斤ニ付イテ二圓ノ課税ニ比較シテ白下糖百斤三圓ハ少シ高過ギルヤウデアアル、併ナガラ黒ト白トハ品質ガ違フノデ差額ガ出來テ居ル、ソレデアアルガ白下ハ黒糖ヨリ一段上等ナ品デアルトスレバ、ソレダケ高イ税ヲ取ッテモ宜イノデアアル、併ナガラ其税ガ二圓ト三圓、一圓ノ差デアアルノハ公平デアルト云フコトハ言ハナイガ、併シ黒糖白下糖ガ同ジ税率ノ下ニ在ルコトハ不公平デアルト云フコトヲ政府ハ言ハレマシタ、ソコデ委員ニ於キマシテハ毎年毎年斯ウ云フ案ガ出ルモノデアリマスカラシテ、十分慎重ニ審議ヲ致シテ見マシタ所ガ、成ルホド斯ノ如キ一部分ノコトハ大局カラ觀察イタシマスレバ小サナ問題デアリマスカレドモ、政府デモ何分カ道理ノアルコト、思ハネバナラナイ、若シ改善スル餘地ガアルナラバ改善シテモ宜イト云フ意向デアルヤウニ考ヘラレ、我々モ亦サウ云フ改善ヲシテヤル餘地ヲ此案ノ中ニ見出ダスモトガ出來ルナラバ、ドウカサウシテヤリタイ、斯ウ思ッタノデアリマシテ、我々當局ニ向ッテハ種々ソレニ關スル質問ヲ試ミタ次第デアリマス、即チ社會政策ノ上カラ是等ノ各種糖ノ產地ニ於ケル状態、又臺灣糖ト内地糖トノ關係、或ハ内國糖自身相互ノ間ニ於ケル關係等ヲ十分ニ研究イタシマシテ、遂ニ斯ノ如キ修正案ヲ提出スルヤウニナッタノデアリマス、ソコデ委員會ハ審議ヲ致シマシタ所デ、成ルホド白下糖ヲ黒砂糖ト一絡ニスルコトハ困ルト云フ政府ノ反對ノ理由モ聞カナケレバナラス、而シテ衆議院ノ言フ所ノ白下糖ヲ乙ニ入レテ三圓ノ税ヲ課セラル、コトハ、キツイコトデアアル、斯ウ云フコトモ酌量シナケレバナラス情狀デアアル、依ッテ我々ハ委員會ニ於キマシテ一圓減ズル所ヲ五十錢減ジテ、「甲」「乙」ト第一種糖ノ砂糖ガ分ッテアリマスノヲ「甲」「乙」「丙」ノ三ツニ分チマシテ、乙ノ部類ニ白下糖ヲ持ッテ參ッタ次第デアリマス、此但書ヲ付ケマシタ理由ハ白下糖ハ是マデ三圓税ヲ取ッテ居リマシタ、之ヲ二圓五十錢ニスル、五十錢減ジマスレバ白下糖ニアラザル模造品ガ白下糖デアルト云フ名ノ下ニ、又臺灣ニゴザイマスル含蜜糖ガ白下糖ト云フ假面ヲ被ブッテ二圓五十錢ノ税ノ恩典ニ

浴スルトカ、又ハ彼ノ地デ出來マシタ新式機械製ノ白下糖ガ五十錢ノ稅ヲ減ズル爲ニ内地ニ這入ッテ來テ白下糖ニ壓迫ヲ加ヘルトカ或ハ一方カラ見マス、臺灣ニ於テソレダケ白下糖トナッテ外ニ出テ行クナラバ、臺灣ノ稅源ニソレダケノ闕陷ヲ來タストカ云フヤウナ虞レガアリマスカラ、茲デ但書ヲ以テ、非常ニ長イ但書デアリマスルガ十分是等ノモノヲ防グト云フ用意ヲ盡シタ但書デアアルノデゴザイマス、政府モ今日ノ場合、此我々ガ修正議決イタシマシタコトニ對シマシテハ課稅ノ主義ノ上デハ先ヅ牴觸シテ居ラスモノト認メテ居ル、又脫稅モ十分防グコトガ付イテ居ルヤウデアルカラ、強ヒテ反對ヲサレナイノミナラズ、殆ド委員會ト意見ヲ同ジウセラレテ居ルモノト見テ宜イヤウナ點ガ少クナイノデアリマス、我々ハ斯ノ如キ考ヘヲ以テ皆様ノ御手許ヘ同ハシテアリマス通り修正議決ヲ致シタ次第デアリマス、デ本會議ニ於キマシテモ、此修正議決ニ對シテ御贊成アラムコトヲ希望シマス

○鎌田勝太郎君 本案ハ過日第一讀會ノ節ニ、政府委員ハ松平伯爵ノ質問ニ對シテ、衆議院案ニハ同意ヲシカネルト云フヤウナル御演說デゴザリマシタガ、本院ノ委員會ニ於テ適當ナル修正ヲ爲シマシテ、滿場一致ヲ以テ委員會ニ於テ決セラレマシタル此案ハ、最早政府ニ於カレマシテモ同意ヲ表セラレルトコト、ハ信ジラレマスガ、念ノタメ政府ノ御意見ヲ承リマス

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 唯今委員長ガ御述ベニナリマシタ如ク、此委員會ノ修正ハ稅率ノ範圍内ニ於テ砂糖ノ品質ニ能ク應ズルヤウナ譯デアリマスノミナラズ、但書ヲ加ヘラレテ、其結果トシテ政府ノ當初推算シテ居リマシタ程マデニ稅額ノ減ズルコトハ無イト云フコトガ確カマリマシタ故ニ、此委員會ノ修正通りデアリマスナラバ、政府ハ本案ニ同意ヲ申上ゲルノデアリマ

ス
○田中芳男君 チョット政府委員ニ御尋ネ致シタウゴザイマス、此案、少シ私ノ質問ハ違フカモ知レマセヌケレドモ、過日來諸方カラ囂々トシテ白下黑砂糖ノコトニ付イテ種々ノ請願ガ出テ參リマシタ、故ニ序デナガラ伺ッテ置キマス、其請願ノ趣意ト云フモノハ、此黑砂糖白下ハ臺灣ノ砂糖ト比較シテ稅ガ高い、然ルニ臺灣糖ハ非常ナ御保護ガ有ルカラ、イツデモ比較シテカラニ、コチラガ損ニナル、願ハクハ臺灣糖ノ保護ヲ廢メテ下サルカ、又ハ臺灣糖ノ保護ト同様ノモノヲ我々ニモ與ヘテ下サルヤウニシテ欲シイト云フヤウ

ナコトヲ言ッテ來テ居ルモノガ多カッタ、デ此相變ラズ臺灣糖ノ爲ニ特別保護ト云フモノハ、ドンナコトニナッテ居リマスカ、ソレヲ心得ノ爲ニ一應伺ヒマス

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 臺灣ニ於ケル砂糖ノ保護ノ重モナルモノハ、御承知ノ如ク砂糖ヲ製造シマスルト云フト、其原料トシテ使ヒマシタ甘蔗ノ量千斤ニ付キ一圓ノ獎勵費ヲ與ヘル、ソレカラ又内地ノ砂糖ニ精製サレル原料ニ臺灣ノ砂糖ヲ供シマスルト云フト、百斤ニ付イテ一圓九十五錢ホド補助ヲ與ヘルト云フノガ臺灣ノ砂糖獎勵ニ付イテノ重モナル交付金デアリマスルガ、其製造砂糖ニ對シテ、原料甘蔗千斤ニ付イテ一圓ヲ給スルト云フコトハ四十三年度限りデ、モウ四十四年度カラハ之ヲ廢スルコトニ致シマシテ、現ニ御協賛ヲ經マシタ豫算ニ於テモ、昨年アッタ金額ハ削ッテ出テ居ルヤウナ次第デアリマシテ、其制ハ廢メマシタノデアリマス、内地ノ精糖ノ原料ニ供スルモノハ、是ハ百斤ニ付イテ昨年通りデアリマスケレドモ、或ル金額ノ補助ヲスルト云フコトハ、四十四年度ニ限ッテハ尙ホ殘ス考ヘデ、現ニ御協賛ヲ經マシタ豫算ノ中ニ載ッテ居リマスノデアリマスガ、四十四年度ハマダ舊ノ關稅ガ一部即チ本年ノ七月十六日マデハ行ハレルノデアリマス、外國糖トノ關係ニ於テ今一年度ダケ之ヲ繼續スルト云フノデアリマスカラ、此モノハ四十四年度ダケハ是マデ通り實行イタシマスケレドモ……金額ハ稍、違ヒマスガ、兎ニ角其方法ハ實行イタシマスケレドモ、是モ亦四十四年度限りデ廢メマシテ、四十五年度以後ハ此保護ハ廢メル譯デアリマス、ソレデ要スルニ臺灣ニ於テ最モ多額ニ砂糖ニ與ヘテ居リマシタ保護金ト云フモノハ、來年度カラ廢メルカ、或ハ再來年カラ廢メルト云フコトニナリマス、殘ル所ハ農業上ノ施設ニ對スル獎勵ト云フモノガ若干アルカモ知レマセヌガ、製造サレル砂糖ニ對スルモノハ、關稅ノ適用……新シイ關稅ノ適用ヲ受クルト同時ニ、一年或ハ二年ノ過渡ノ時ヲ除イテハ全然之ヲ廢メルコトニナルノデアリマス、之ヲ御答ヘシマス

○議長(公爵德川家達君) 採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半數ト認メマス

○伯爵寺島誠一郎君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望シマス

○伯爵大木遠吉君 賛成

○伯爵大原重朝君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 直チニ第二讀會ヲ開クベシトスル說ニ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 直チニ第二讀會ヲ開キマス、全部ヲ問題ニ供シマス

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 特別委員長ノ報告通り御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○伯爵寺島誠一郎君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望シマス

○伯爵大木遠吉君 賛成

「其他」賛成ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開キマス、第二讀會決議ノ通り御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十二、水道條例中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告、特別委員長大木伯爵

水道條例中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十四年三月十五日

貴族院議事速記録第十八號

明治四十四年三月十六日

砂糖消費稅法中改正法律案 第一讀會ノ續

水道條例中改正法律案 第一讀會ノ續

砂糖消費稅法中改正法律案 第二讀會、第三讀會

貴族院議長公爵德川家達殿

「伯爵大木遠吉君演壇ニ登ル」

右特別委員長

伯爵 大木 遠吉

○伯爵大木遠吉君 水道條例ノ改正案ノ委員會ニ於ケル結果ヲ御報告イタシマス、該案ハ元來水道條例ニ於テ水道ヲ布設スルコトハ市町村ノ公費ヲ以テ布設スルヨリ外ニ途ハアリマセヌデアリマシタノヲ、町村ノ如キ所ハ自然種々ノ負擔モアリマシテ、水道ノ布設ニ著手スルト云フ機會ハ殆ド得ラレナイ状態ニアリマスル爲ニ、此條例ニ改正ヲ加ヘマシテ、私人ノ經營ト雖モ之ヲ許ス、サリナガラ此元來ノ原則デアル所ノ公營主義……公營ノ主義ト云フモノハ決シテ是ハ破壊スルコトハナラヌ、一時ノ便法トシテ私人ノ經營ニ之ヲ許シテ差支ヘナシト認メタ場合ニ於テハ之ヲ許サウ、即チ其調査及監督ノ如キモノハ、依然トシテ矢張り内務省ニ於テ之ヲ爲スベキモノデアル、而シテ是ハ決シテ私人經營ト雖モ營利ノ爲ニ圖ルコトヲ許サナイ、斯ノ如キ見解ヲ以テ、種々委員會ニ於キマシテモ質問ヲ致シマシタ結果、之ヲ可決スベシト、斯ウ云フ意向デアリマシテ、政府モ亦之ニ同意ヲ致サレタ次第デアリマス、委員會ニ於テハ滿場一致ヲ以テ可決シタ次第デアリマス、本案ハ御承知ノ如ク衆議院提出案デアリマス、サリナガラ矢張り實質ナル堅實ナル民意ヨリ成立ッタモノハ貴族院ハ公平ニ之ヲ審査シテ而シテ其民意ヲ或ル程度マデハ無論理由ナク拒ムモノデハナイト云フコトヲ事實ニ於テ表示イタスコトノ機會ヲ得マシタコトハ本員ノ甚ダ光榮ト致ス所デアリマス、昨日ハ普通選舉ノ如キ問題ガアリマシタガ、是ハ本員モ大反對デアッタガ、決シテ民意ヲ理由ナク拒ム者デナイ、大日本帝國ノ貴族院ハ理由ナク之ヲ拒ムモノデハナイト云フコトヲ表示スルノ機會ヲ得タコトハ本員ノ甚ダ光榮ト致ス所デアリマス、本案ハ御承知ノ如ク簡單ナル案デアリマスルガ故ニ、願ハクハ讀會省略ヲ以テ直チニ可決確定アラムコトヲ希望イタシマス

○男爵石黑忠惠君 チョット委員長ニ伺ヒマスガ、此「土地開發」ト申シマスコトハ、概括イタシマス、ドウ云フコトヲ申シマスカ

○伯爵大木遠吉君 何デスカ

○男爵石黑忠惠君 土地開發ト申シマスコトハ……

○伯爵大木遠吉君 土地開發……ソレハ私御答ヘシマセウ、元來此水道ヲ布

設スルコトハ布設其モノヲ以テ布設者ガ利益ヲ圖ルト云フ意味デハナイノデアル、又出來ナイノデアル、唯土地ニ水道ヲ布設シマシテ便利ヲ得セシメタ結果ガ土地ヲ開發セシメテ、其土地ヲシテ價ヲ増ストカ、或ハ工場地トナルトカ云フガ如キ便利ヲ得セシムルガ主眼デアリマス、故ニ其結果ガ土地ノ開發ヲ來タスノデアル、斯様ニ御承知ヲ願ヒマス

○男爵石黒忠恵君 了解イタシマシタガ、例ヘバ大工場ヲ或ル廣漠ナ土地ニ開キマシテ、此大工場ノ爲ニ特ニ設ケマスル水道ト云フヤウナモノハ、ドンナモノデゴザイマセウカ、大工場ニハ子弟ヲ澤山使ヒマスルデ、水道ガ最モ必要デゴザイマスルガ、其大工場ノ爲ニ使用イタシマスル水道ダケデモ矢張り此土地開發ノ中ニ籠ッテ居リマスカ、居リマスマイカト云フノデ……

○伯爵大木遠吉君 本員ハ左様ニ心得テ居リマスガ、尙ホ御不審デアリマスレバ、ドウカ政府委員ニ御質問ヲ願ヒマス

○伯爵柳澤保恵君 委員長ニ伺ヒマスガ、此改正ノ趣旨ハ能ク分リマシタ、併ナガラズノ如キ改正ヲ要シマスノハ、斯ノ如キコトヲセネバナラヌト云フ事實ガ何レアッタラウト思ヒマスガ、少シク具體的ニ此事實ニ付イテ御話ヲ伺ヒタウゴザイマス

○伯爵大木遠吉君 事實ノコトハ本員モ餘リ能ク承知シテ居リマセヌ、併ナガラ此大都會ノ下、即チ隆盛ナル土地ノ附近ニ在リマスル所ノ町村ハ殆ド接シテ居ルニ拘ラズ、水道ノ利益ヲ受ケラレナイト云フ所カラ、是ハ概括シテ廣ク御覽ニナルト、種々ノ御疑念モ生ジマセウカ、先ヅ例ヘバ東京附近、即チ大森、品川ト云フヤウナ場所ハ矢張り町村ノ中デアリマス故ニ水道ノ便利ヲ受ケラレナイデ大ニ困ッテ居ル、サラバト云ッテ其町村ニ於テ自力ヲ以テ經營スルコトハ未ダ其餘地ガ無い、殆ド致シ様が無い、茲ニ於テ斯ノ如キ案ハ大ニ有效ナル結果ヲ來タスデアラウ、斯ウ云フコトデアリマス、御分リニナリマシタカ

○男爵石黒忠恵君 唯今本員ノ申シマシタ大工場ニ對シテノコトハ政府委員ニ伺ヒタウゴザイマス

〔政府委員小橋一太君演壇ニ登ル〕

○政府委員(小橋一太君) 石黒男爵ノ御尋ネニ御答ヘ致シマス、唯今ノ御尋ネハ全ク新開地ニ大工場ヲ設ケテ其工場ノ爲ニ水道ヲ引用スル場合ニハ今ノ但書ノ改正ニ當ルヤ否ヤ、斯ウ云フ御尋ネデアッタト存ジマスガ、土地開發

ノ爲メト申シマス、其土地ノ一般ノ發達ヲ圖ル爲ニ水道ヲ設ケル場合デゴザイマシテ、大工場ニ於テ其工場主ガ單ニ其職工及其關係者ノ爲ノミニ專用ニ使用イタシマス場合ニハ、一般公衆ノ用ニ供スルモノデナケレバ是ハ含マナイ考ヘデゴザイマス

○男爵石黒忠恵君 序デニ伺ッテ置キマスガ、例ヘバ或ル一定ノ區畫ニ大工場ヲ設ケマシテ……大工場バカリデナク、大工場ガ在リマスト云フト、其周圍ニハ自ラ工場外ノ部落ガ出來マスガ、ソレニモ兼ネテ用キマスルト云フヤウナ目的ノ水道ハドウナリマスカ

○政府委員(小橋一太君) 工場主ニ於キマシテ自己ノ附屬職工以外ニ廣ク公衆ノ爲ニ其附近ノ部落等ニ供給イタシマスル目的ヲ以テ經營イタシマス場合ハ、此但書ニ包含スル考ヘデアリマス、公衆ノ用ニ供スル場合ハ包含スル考ヘデアリマス

○久保市三郎君 讀會省略ニ賛成ヲ致シマス

○議長(公爵徳川家達君) 讀會省略ノ動議ハマダ出テ居ラスカト考ヘマス

○伯爵大木遠吉君 本員ハ讀會省略ヲ要求イタシマシタ、希望イタシマシタ、ソレヲ御忘レニナッテハ困リマス

○議長(公爵徳川家達君) マダ賛成者ガゴザイマセナンダ故ニ、問題トナッテ居ラスト議長ハ考ヘテ居リマシタ

○伯爵柳原義光君 讀會省略ニ賛成

○子爵本莊壽巨君 賛成

○男爵山内豐政君 賛成

○伊澤修二君 讀會省略ニ賛成

○岩村兼善君 賛成

○伯爵大原重朝君 賛成

○伯爵廣澤金次郎君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 讀會省略ノ動議ニハ定規ノ賛成者ガアッタト認メマス、讀會省略ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案、特別委員長ノ報告通りデ御異存ゴザイマセ
スカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサセマ
ス、會期モ切迫イタシマシタカラ、先日モ申述ベマシタ通り成ルベク速ニ正
副委員長ノ互選ヲ行ハレルコトヲ希望イタシマス

〔東久世書記官朗讀〕

韓國鐵道會計所屬資金ノ繰入ニ關スル法律案特別委員

伯爵松平 賴壽君 子爵牧野 貞寧君 子爵松平 忠禎君

男爵野田 豁通君 田邊 輝實君 谷 森 眞男君

兒玉 淳一郎君 加藤 正惠君 淺野 長太郎君

租稅外諸收入金整理ニ關スル法律案外三件特別委員

伯爵廣澤 金次郎君 子爵牧野 忠篤君 子爵榎本 武憲君

男爵北島 齊孝君 男爵目賀田種太郎君 藤田 四郎君

仁尾 惟茂君 山本 達雄君 鎌田 勝太郎君

電氣事業法案特別委員

伯爵柳原 義光君 子爵青山 幸宜君 子爵島居 忠文君

子爵實吉 安純君 男爵田 健治郎君 男爵中島 久万吉君

湯地 定基君 千坂 高雅君 石黑 五十二君

司法事務共助法案特別委員

伯爵清閑寺 經房君 男爵北島 治房君 子爵鍋島 直虎君

男爵岡内 重俊君 男爵平野 長祥君 加太 邦憲君

馬屋原 二郎君 古莊 嘉門君 森廣 三郎君

大藏省預金部ノ利益金ヲ一般會計ニ繰入ル件ニ關スル法律案特別委員

侯爵花山院 親家君 伯爵大村 純雄君 子爵藤谷 爲寬君

子爵梅小路 定行君 男爵高橋 是清君 男爵徳川 厚君

男爵伊丹 春雄君 中島 永元君 伊澤 修二君

市制改正法律案外二件特別委員

伯爵萬里小路通房君 伯爵徳川 達孝君 子爵堤 功長君

男爵千家 尊福君 男爵園田 安賢君 男爵周布 公平君
平山 成信君 男爵高木 兼寛君 男爵石黒 忠惠君
男爵波多野 敬直君 男爵中川 興長君 富田 鐵之助君
石渡 敏一君 穂積 八束君 土居 通博君
○議長(公爵徳川家達君) 明後十八日ノ議事日程ハアトヨリ御通知ニ及ビマ
ス、本日は是デ散會イタシマス

午後零時二分散會